

教科・科目		対象学科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
国語・現代の 国語		工業科 商業科・ 1 学年	2	新編 現代の国語（数研出版）	新編現代の国語 準拠ワーク（数研出版） 新訂国語図説 六訂版 （京都書房） 書いて覚える漢字練習ノート 二訂版 （京都書房）
科目の概要 と目標		・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって事自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	書き手の意図をつかむ 書き言葉の技術	・目指す世界の地図を作る ・ものづくり ・(文章トレーニング 1) 文章構造を理解する	・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の意図や表現上の工夫を的確に読み取り、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
5	文章の展開を把握する	・時間とは何か ・地球を旅する水の話	・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の考えを粘り強く理解し、適切な表現を用いて、学習課題に沿って論理的にまとめようとしている。
6	話し葉の技術 対比を読み取る	・(適切に話す・聞く) スピーチ ・水の東西	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	・「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・相手に伝わるスピーチのしかたについて粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に話したり聞いたりしようとしている。 ・筆者の意見を踏まえた事例について粘り強く考察し、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。
7	対比を読み取る 日常の中の文章	・里山物語 ・写真を文章で説明する	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。	・筆者の主張を粘り強く読み解いて自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・課題資料が示す内容を積極的に読み取り、読み手に伝わりやすい表現を工夫して、学習課題に沿って説明しようとしている。
9	言葉の働きをとらえる	・語感トレーニング	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の意見を踏まえて具体的な事例を積極的に考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
10	コミュニケーションと言葉	・世間話はなぜするか ・非言語コミュニケーション	・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深めている。	・具体的な事例について筆者の主張をもとに粘り強く考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。
11	書き手の考えを比較する	・科学と非化学 ・(探究の扉) 科学的とはどういう意味か。	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	・「話すこと・聞くこと」において、目的に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	・筆者の意見を踏まえて積極的に具体的な事例を考え、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
12	言葉の働きをとらえる	・コインは円形か	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。	・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。	・筆者の意見や【例】を参考にしながら積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。
1	日常の中の文章 話し葉の技術	・広告コピーを書く ・(話し合いの方法) ディベート・討議	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・推論の仕方を理解し使っている。	・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的に応じて、結論の出し方を工夫している。	・課題資料を参考にしながら、伝わりやすい形式・表現を積極的に工夫し、学習課題に沿って適切に広告コピーを作成しようとしている。 ・ディベートにおける論理の一貫性について進んで検討しようとしている。 また、ディベートを踏まえて、自分の考え方について振り返り、積極的に話し合おうとしている。
2	根拠を読み取る	・「差」という情報 ・「わらしべ長者」の経済学	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	・筆者の意見を踏まえて積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。
3	社会の中の文章	・グラフをもとに話し合う	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	課・題資料を参考にしながら積極的に調査を行い、学習課題に沿って適切に資料を作成しようとしている。

教科・科目		対象学科 ・学年	単位数	教科書		使用教材	
国語・ 現代の国語		普通科 ・1年	2	高等学校現代の国語（第一学習社）		新訂国語図説六訂版 書いて覚える漢字練習ノート二訂版	
科目の概要 と目標		・生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 ・言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。					
月	単元	学習内容	評価方法				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	表現編 話して伝える	「話し方の工夫」 「待遇表現」など	・相手・目的・場面を考慮した表現方法を理解している。	・学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、積極的に表現しようとしている。【話す・聞く】	・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。		
	理解編1 理解編2	『『生きもの』として生きる』『『本当の自分』幻想』『水の東西』『ものごとことば』	・常用漢字を文の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、論理の展開を的確に捉え、内容を解釈している。【読む】 ・本文の主題や論理構成を踏まえて自分の意見や考えを論述している。【書く】	・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。		
	論理分析	『『間』の感覚』『日本語は世界をこのように捉える』	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。		
	理解編1	「羅生門」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・修辭を理解している。 ・読書の意義を理解している。	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章構成や論理の展開の仕方を捉えようとしている。 ・内容の解釈を踏まえて表現の仕方を工夫して書こうとしている。		
	理解編2	「砂に埋もれたル・コルビュジエ」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・修辭を理解している。 ・読書の意義を理解している。	・父との過去の会話を重層的に描いた構成を把握し、根拠の示し方を工夫して自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。		
8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	理解編3 理解編4	「無彩の色」『『文化』としての科学』『現代の『世論調査』』『フェアな競争』	・常用漢字を文の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・主題について文章構成をもとに把握し、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。【読む】 ・自分の考えなどが的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫している。【話す・聞く】	・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。		
	論理分析	『『私作り』とブライバシー』『AIは哲学できるか』	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。		
	理解編3	「夢十夜」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・修辭を理解している。 ・読書の意義を理解している。	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。		
	理解編4	「鏡」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辭を理解している。	・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解くなどして、自分の意見や考えを伝えている。【話す・聞く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。		
1 ・ 2 ・ 3	理解編5	「不均衡な時間」 「ロビンソン的人間と自然」	・常用漢字を文の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけて解釈し、構成や論理展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。		
	論理分析	「デザインの本意」 『『動機』の語彙論』という視点」	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。【読む】	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。		
	理解編5	「城の崎にて」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辭を理解している。	・構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めるなどして、自分の意見や考えを論述している。【書く】	・自分の意見や考えを論述するために、文章の内容や構成、論理の展開の仕方などを積極的に捉えようとしている。		
	理解編6	「法律の改正に関わる文章を読み比べる」「日本の労働問題に資料を読み比べる」など	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方を理解し、活用している。	・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解している。【読む】 ・読み手からの助言を踏まえて、目的に応じて書いたり話したりする方法を修正している。【書く】【話す・聞く】	・理解したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめようとしている。		

教科・科目	対象学 科・学年	単 位 数	教 科 書		使 用 教 材	
国語 ・言語文化	工業科 商業科 ・1年	2	新編 言語文化（数研出版）		新編言語文化 準拠ワーク（数研出版） 新訂国語図説 六訂版（京都書房） ビギナーズ古典（尚文出版）	
科目の概要 と目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
月	単 元	学習内容	評価方法			
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	古文編 古文の世界を楽しむ	『宇治拾遺物語』	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	・積極的に兄と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	
5	漢文編 日本語の中に生きる漢文	「訓読のきまり」 「格言」	・漢文訓読の基礎を理解している。	なし	・漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。	
6	近現代編 地域の「ことば」 「ことば」を吟味する 受け継がれる古典	「とんかつ」 「舟を編む」 「羅生門」	・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・比喩などの修辞を理解している。 ・読書の意義と効用を理解している。	・効果的な表現や難解な語句に留意し、話の展開や主題を読み取っている。 ・描かれた場面の状況から登場人物の心情を理解している。	・自分の意見や考えを論述するために、文章構成や論理の展開の仕方を捉えようとしている。 ・内容の解釈を踏まえて下人の行為を評価し、表現の仕方を工夫して書こうとしている。	
7	古文編 和歌が作り出す世界 近現代編 詩歌を味わう	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 「六月」「サーカス」「短歌」 「俳句」	・我が国の言語文化に特徴的な和歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・修辞技法を理解する。	・和歌や詩歌という文章の種類を踏まえて、情景や心情など、内容や展開を的確に捉えている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	・修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 ・学習内容を生かして意欲的に和歌や詩歌の制作に努めている。	
9	古文編 現代にも生きる教え 近現代編 語感を磨く	『徒然草』 「側転と三夏」	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・作者の批判的精神が提示する事柄を読み解いている。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。	・随筆の内容や構成などを把握し、学習課題に沿って説明しようとしている。 ・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取ろうとしている。	
10	漢文編 故事と成語	「助長」「漁夫の利」「虎の威を借る狐」「管鮑の交わり」	・漢文訓読の基礎を理解している。	・故事成語のもとになった話の内容を捉えた上で、故事成語の現在使われている意味について理解している。	・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。	
11	古文編 昔と変わらない人の心 近現代編 「ことば」の力	『伊勢物語』 「葉桜と魔笛」	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・話の中で和歌が果たしている役割や歌物語の特徴を理解した上で内容を解釈している。	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。	
12	漢文編 漢詩を味わう 近現代編 文体の魅力	「中国の漢詩」 「日本の漢詩」 「名人伝」	・作品の歴史的・文化的背景を理解している。 ・漢詩のきまりを理解している。	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取っている。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。	・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。	
1	古文編 戦時下の人間像	『平家物語』	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現を理解している。	・作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈している。	・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを深めようとしている。	
2	漢文編 論語のことば 近現代編 記録する文学	『論語』 「沖縄の手記から」	・訓読のきまりを理解している。 ・現代との言葉のつながりを理解している。	・孔子のものの見方や考え方を理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。	・孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。	
3	古文編 先人を思う旅	『おくのほそ道』	・文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・作品に表れた作者の思想や心情を捉えている。 ・俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。	・俳諧紀行文の特徴を積極的に理解し、学習課題に沿って作者の感じ方や考え方を捉えようとしている。	

教科・科目		対象学科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
国語・ 言語文化		普通科・ 1 学年 (体育コース)	2	高等学校 言語文化（第一学習社）	高等学校 言語文化 学習課題集（第一学習社） 新訂国語図説 六訂版（京都書房） 基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版（桐原書店）
科目の概要 と目標		・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	古文入門	・児のそら寝 ・絵仏師良秀 ・なよ竹のかぐや姫	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。
5	漢文入門	・訓読に親しむ（一） ・訓読に親しむ（二）	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
6	故事成語	・漁夫之利 ・狐借虎威	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。
7	歌物語	・東下り ・筒井筒	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。
9	近現代の 詩歌	・その子二十 ・こころの帆	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。
1 0	随筆（一）	・枕草子	・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。
1 1	史伝	・先従隗始 ・臥薪嘗胆	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。
1 2	近現代の 詩歌	・贅のうへ ・一つのメルヘン ・自分の感受性くらい ・I was born	我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。
1	随筆（二）	・徒然草	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
2	漢詩	・漢詩の世界	・表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。
3	軍記物語	・平家物語	・和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

教科・科目		対象学科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
国語・ 言語文化		普通科・ 1 学年	3	高等学校 言語文化（第一学習社）	高等学校 言語文化 学習課題集（第一学習社） 新訂国語図説 六訂版（京都書房） 基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版（桐原書店）
科目の概要 と目標		・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	古文入門	・児のそら寝 ・絵仏師良秀 ・なよ竹のかぐや姫	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている。
5	漢文入門	・訓読に親しむ（一） ・訓読に親しむ（二）	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
6	故事成語	・漁夫之利 ・狐借虎威 ・蛇足	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。
7	歌物語	・東下り ・筒井筒	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。
9	近現代の 詩歌	・その子二十 ・こころの帆	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。
1 0	随筆（一）	・枕草子	・時間の経過による言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。
1 1	史伝	・先従隗始 ・臥薪嘗胆	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。
1 2	近現代の 詩歌	・贅のうへ ・一つのメルヘン ・自分の感受性くらい ・I was born	我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・描かれた情景を読み取り、進んで作者の心情について話し合おうとしている。
1	随筆（二）	・徒然草	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めている。	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。
2	漢詩 軍記物語	・漢詩の世界 ・平家物語	・表現の技法とその効果について理解している。 ・和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・作品に表れている無常観を粘り強く読み取り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
3	思想 古典の詩 歌	・論語 ・奥の細道	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解を深めている。 ・古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などに理解を深めている。	・「読むこと」において、文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするところを粘り強く説明しようとしている。 ・俳諧紀行文の特徴を積極的に理解し、学習課題に沿って作者の感じ方や考え方を捉えようとしている。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 世界史A	普通科2年 工業科2年 商業科2年	2	新版世界史A 新訂版 (実教出版)	ダイアログ世界史図表 新版五訂 (第一学習社)
科目の概要 と目標	1 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させる。 2 文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培う。 3 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
学 期	単 元		学 習 内 容	到 達 度 目 標
1	世界史へのいざない (Ⅰ) ユーラシアの諸文明 1 ユーラシアの諸文明と交流 (Ⅱ) 一体化する世界と日本 2 一体化に向かう世界と日本		人類の誕生と文明の発生、東アジア世界の形成、東アジア世界の展開、東アジア世界の発展、モンゴル帝国と元、南アジア世界の形成、南アジア世界の展開、東南アジア世界の成立、オリエント世界の統一、地中海世界の形成、キリスト教の成立と発展、イスラームの成立、イスラーム帝国の分裂と多様化、ヨーロッパ世界の形成、ヨーロッパ世界の展開 ルネサンスと宗教改革、大航海時代、絶対王政の時代、西ヨーロッパ諸国の展開、東ヨーロッパ諸国の展開、近代ヨーロッパと世界貿易、イスラーム諸王朝の成熟、オスマン帝国とヨーロッパ、明から清へ	地球の誕生や人類の誕生の変遷、四大文明と現在の文化の関連性を理解することができる。 殷から清までの中国王朝を、漢民族と遊牧騎馬民族との関係に留意しながらそれぞれの変遷を考察し、風土と生活、言語・文字、思想などの視点を通して東アジアの世界を理解する。 厳しい自然環境の下でいろいろな宗教の成立を考察し、それを基礎とした社会制度が確立することで一つの社会が形成される過程を理解する。 キリスト教から成立した社会を考察するとともに、中世ヨーロッパ封建社会の動向について理解する。
2	3 ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界変動 (Ⅲ) 地球社会と日本 4 現代世界のあゆみ		産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオンとウィーン体制、1848年の革命、19世紀後半のイギリスとフランス、19世紀後半のイタリアとドイツ、東方問題と19世紀のロシア、19世紀のアメリカ合衆国、西アジアの変動、南アジアの変動、東南アジアの変動、中華帝国の動揺、明治維新と東アジア、東アジアの変革急変する社会、帝国主義と世界分割、ヨーロッパ国際関係の緊張、第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ体制と国際連盟、戦間期の欧米と日本、西アジア・インドの民族運動、東アジアの民族運動、世界恐慌とニューディール、ヒトラーとムッソリーニ、満州事変から日中戦争へ、ヨーロッパでの戦争、アジア・太平洋戦争	新航路の開拓以後、世界の一体化が進み、植民地が形成されるようになったことを理解する。 イギリス・アメリカ・フランスの市民革命の過程と産業革命後の資本主義成立が諸国に与えた影響を理解する。 18世紀後期から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成の進行を理解し、その知識を身につけるとともに、これらを考察・比較して、その過程や結果を適切に表現することができる。帝国主義列強による世界分割と各国の変貌を、地図や図版を利用して、視覚的に捉えることができる。2つの世界対戦の経緯と現代の戦争の具体的な姿について考察することができる。
3	5 第二次世界大戦後の世界 主題学習		国際連合と冷戦、ヨーロッパとアジアの冷戦、アジア諸国の独立、第三勢力の結集、多極化する世界、冷戦の終結と社会主義の変容、冷戦後の世界、21世紀の世界、模擬国連をやってみよう	東西冷戦や多極化、戦後世界の動向を考察することができる。 冷戦終結後の地域紛争の実例を取り上げ考察し、今後の全人類の課題について、解決方法をふまえて考察することができる。 環境、世界平和・安全など全人類の課題について考察し、国際的な交流と強調の必要性について理解する。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 世界史B	普通科 2年 (文系)	4	世界史B（東京書籍）	アカデミア世界史（浜島書店） 世界史 重要語句チェックリスト2022（啓隆社） 高校生のためのふるさと富山（富山県教育委員会）
科目の概要 と目標	1 四大文明の起源を知り、その後の古代国家の成立、発展の過程を把握する。また前近代においては各地域における信仰が国家と密接な関係をもち、歴史的展開にも重要な役割を担っていたことを認識する。 2 地域ごとの歴史展開を把握しながらも、各時代において地域を超えた交渉があったことを経済や文化の視点を主眼として学習する。 3 後進的なヨーロッパ世界がキリスト教布教とともに拡大していった様子を学ぶとともに、宗教改革やルネサンスなどがキリスト教世界から起こり、近代社会を生み出す基盤となったことを認識させる。 4 身近な郷土の歴史を世界における日本の様子と関連づけて理解を促す。			
学期	単元	学習内容		到達度目標
1	文明以前の人類 オリエント世界と東地中海世界	人類の登場 地域文化の形成 オリエント世界の成立 オリエント世界の展開 ギリシア世界 ヘレニズム世界		・人類の進化の過程や文明の成立について関心を持つようにさせる。 ・メソポタミアとエジプトの文明が生み出した様々な国家の興亡について整理し、把握できるようにする。 ・ギリシアとローマの文明の形成と政治的変遷について共通点、相違点などを見出すことができるようにする。 ・ローマ帝国の興亡を戦争や奴隷制と関連付けて説明できるようにする。 ・インダス文明について概要を把握できるようにするとともにインド社会と宗教のかかわりに注目しながら歴史的展開を説明できるようにする。 ・黄河文明の成立から唐にいたるまでの王朝の興亡を政治制度、経済状況、周辺諸民族の動向などに着目しながら正確に答えられるようにする。
	地中海世界と西アジア	都市国家から世界帝国へ ローマ帝国の繁栄 古代末期の世界と地中海世界の解体 地中海世界と西アジア		
	南アジア世界	南アジアにおける文明の成立と国家形成 インド世界の形成		
	東アジア世界	東アジアにめばえた文明 中華帝国の誕生 東方の世界帝国		
	高校生のためのふるさと富山	随時、世界史で学習したことに絡めて内容に触れる。		
2	内陸ユーラシア世界	騎馬遊牧民国家の興亡 草原地帯のトルコ化とイスラーム化		・東西の文明交流や経済面での結びつきに着目し、また中国やヨーロッパの情勢と関係づけて、その興亡を説明できるようにする。 ・インドや中国の歴史との関連性において東南アジアにおける歴史文化遺産を説明できるようにする。またアフリカや古代アメリカについてはのちの時代の伏線として概略を把握できるようにする。 ・イスラームの教義の特色をふまえたうえで、アジアの様々なイスラーム王朝の興亡を整理して把握できるようにする。またイスラーム文明が世界史において果たした役割についても概要を把握させる。 ・科挙官僚を支配層とする中国社会の成立過程をふまえて、周辺諸民族との抗争を通じた五代・宋以降の王朝興亡を説明できるようにする。 ・東ヨーロッパ世界の特徴をビザンツ帝国とスラブ人の動向を中心に把握できるようにし、基本的知識を習得させる。 ・西ヨーロッパ世界の形成におけるローマカトリック教会の役割に注目しながら、中世ヨーロッパの封建社会の成立と変容について説明できるようにする。
	東南アジア世界 アフリカ、オセアニア、古アメリカの地域世界	海の道の形成と東南アジア 東南アジア諸国家の再編成 アフリカ オセアニア 古アメリカ		
	イスラーム世界の形成	イスラーム世界の成立 イスラーム世界の発展 イスラーム文明		
	ヨーロッパ世界の形成	東ヨーロッパ 西ヨーロッパ中世世界の成立 封建社会と都市 カトリック教会と十字軍 中世ヨーロッパ文化 中世世界の動揺 ルネサンス		
	東アジア世界の変容とモンゴル帝国	唐の崩壊後の東アジア 宋代の新展開 ユーラシア帝国をおおうモンゴル帝国 元朝の成立		
高校生のためのふるさと富山	随時、世界史で学習したことに絡めて内容に触れる。			
3	海域世界の発展	三つの海域世界の成立 海と陸の結合 東南アジア世界の発展		・モンゴル、イラン、トルコ系諸民族による各王朝の興亡を整理して把握できるようにするとともに、それらがユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について説明できるようにする。 ・明・清時代の儒教体制による政治制度の整備と経済および文化の繁栄について、ヨーロッパに与えた影響などもふまえながら具体的な事例をあげられるようにする。 ・プロテスタントの思想的特色を従来のローマ＝カトリックと対比して理解できるようにするとともに、ヨーロッパのアジア・アメリカへの進出について宗教改革の影響が絡んでいることをふまえて事例をあげられるようにする。 ・ヨーロッパに絶対主義による主権国家に基づいた国際社会が成立した経緯を把握したうえで、16～18世紀のヨーロッパで戦争が絶えなかった理由を政治体制、経済的事情、宗教対立などの面からそれぞれ説明できるようにする。
	大交易時代	アジア交易世界の再編と活況 海洋帝国の出現 大交易時代の世界		
	ユーラシア諸帝国の繁栄	イランと中央アジアの繁栄 東地中海の強国－オスマン帝国 インドの大国－ムガル帝国 明と東アジア世界 清と東アジア世界		
	近世のヨーロッパ	主権国家群の形成と宗教改革 オランダの繁栄と英仏の追いあげ 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家、近世ヨーロッパ社会と文化		
	高校生のためのふるさと富山	随時、世界史で学習したことに絡めて内容に触れる		

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 世界史B	普通科 2年 (体育コース)	3	世界史B（東京書籍）	アカデミア世界史（浜島書店） 世界史 重要語句チェックリスト2022（啓隆社） 高校生のためのふるさと富山（富山県教育委員会）
科目の概要 と目標	1 四大文明の起源を知り、その後の古代国家の成立、発展の過程を把握する。また前近代においては各地域における信仰が国家と密接な関係をもち、歴史的展開にも重要な役割を担っていたことを認識する。 2 地域ごとの歴史展開を把握しながらも、各時代において地域を超えた交渉があったことを経済や文化の視点を主眼として学習する。 3 後進的なヨーロッパ世界がキリスト教布教とともに拡大していった様子を学ぶとともに、宗教改革やルネサンスなどがキリスト教世界から起こり、近代社会を生み出す基盤となったことを認識させる。 4 身近な郷土の歴史を世界における日本の様子と関連づけて理解を促す。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	文明以前の人類 オリエント世界と東地中海世界 地中海世界と西アジア 南アジア世界 東アジア世界 高校生のためのふるさと富山	人類の登場 地域文化の形成 オリエント世界の成立 オリエント世界の展開 ギリシア世界 ヘレニズム世界 都市国家から世界帝国へ ローマ帝国の繁栄 古代末期の世界と地中海世界の解体 地中海世界と西アジア 南アジアにおける文明の成立と国家形成 インド世界の形成 東アジアにめばえた文明 中華帝国の誕生 東方の世界帝国 随時、世界史で学習したことに絡めて内容に触れる。	・人類の進化の過程や文明の成立について関心を持つようにさせる。 ・メソポタミアとエジプトの文明が生み出した様々な国家の興亡について整理し、把握できるようにする。 ・ギリシアとローマの文明の形成と政治的変遷について共通点、相違点などを見出すことができるようにする。 ・ローマ帝国の興亡を戦争や奴隷制と関連付けて説明できるようにする。 ・インダス文明について概要を把握できるようにするとともにインド社会と宗教のかかわりに注目しながら歴史的展開を説明できるようにする。 ・黄河文明の成立から唐にいたるまでの王朝の興亡を政治制度、経済状況、周辺諸民族の動向などに着目しながら正確に答えられるようにする。	
2	内陸ユーラシア世界 東南アジア世界 アフリカ、オセアニア、古アメリカの地域世界 イスラーム世界の形成 ヨーロッパ世界の形成 東アジア世界の変容とモンゴル帝国 高校生のためのふるさと富山	騎馬遊牧民国家の興亡 草原地帯のトルコ化とイスラーム化 海の道の形成と東南アジア 東南アジア諸国家の再編成 アフリカ オセアニア 古アメリカ イスラーム世界の成立 イスラーム世界の発展 イスラーム文明 東ヨーロッパ 西ヨーロッパ中世世界の成立 封建社会と都市 カトリック教会と十字軍 中世ヨーロッパ文化 中世世界の動揺 ルネサンス 唐の崩壊後の東アジア 宋代の新展開 ユーラシア帝国をおおうモンゴル帝国 元朝の成立 随時、世界史で学習したことに絡めて内容に触れる。	・東西の文明交流や経済面での結びつきに着目し、また中国やヨーロッパの情勢と関係づけて、その興亡を説明できるようにする。 ・インドや中国の歴史との関連性において東南アジアにおける歴史文化遺産を説明できるようにする。またアフリカや古代アメリカについてはのちの時代の伏線として概略を把握できるようにする。 ・イスラームの教義の特色をふまえたうえで、アジアの様々なイスラーム王朝の興亡を整理して把握できるようにする。またイスラーム文明が世界史において果たした役割についても概要を把握させる。 ・科挙官僚を支配層とする中国社会の成立過程をふまえて、周辺諸民族との抗争を通じた五代・宋以降の王朝興亡を説明できるようにする。 ・東ヨーロッパ世界の特徴をビザンツ帝国とスラブ人の動向を中心に把握できるようにし、基本的知識を習得させる。 ・西ヨーロッパ世界の形成におけるローマカトリック教会の役割に注目しながら、中世ヨーロッパの封建社会の成立と変容について説明できるようにする。	
3	海域世界の発展 大交易時代 ユーラシア諸帝国の繁栄 近世のヨーロッパ 高校生のためのふるさと富山	三つの海域世界の成立 海と陸の結合 東南アジア世界の発展 アジア交易世界の再編と活況 海洋帝国の出現 大交易時代の世界 イランと中央アジアの繁栄 東地中海の強国－オスマン帝国 インドの大国－ムガル帝国 明と東アジア世界 清と東アジア世界 主権国家群の形成と宗教改革 オランダの繁栄と英仏の追いあげ 18世紀のヨーロッパと啓蒙専制国家、近世ヨーロッパ社会と文化 随時、世界史で学習したことに絡めて内容に触れる	・モンゴル、イラン、トルコ系諸民族による各王朝の興亡を整理して把握できるようにするとともに、それらがユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について説明できるようにする。 ・明・清時代の儒教体制による政治制度の整備と経済および文化の繁栄について、ヨーロッパに与えた影響などもふまえながら具体的な事例をあげられるようにする。 ・プロテスタントの思想的特色を従来のローマ＝カトリックと対比して理解できるようにするとともに、ヨーロッパのアジア・アメリカへの進出について宗教改革の影響が絡んでいることをふまえて事例をあげられるようにする。 ・ヨーロッパに絶対主義による主権国家に基づいた国際社会が成立した経緯を把握したうえで、16～18世紀のヨーロッパで戦争が絶えなかった理由を政治体制、経済的事情、宗教対立などの面からそれぞれ説明できるようにする。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 世界史B	普通科 3 学年 (文系)	3	世界史B（東京書籍）	ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） 世界史B用語集（山川出版社） 世界史重要語句チェックリスト（啓隆社）
科目の概要 と目標	1．近代市民社会の目覚めとなるアメリカ独立戦争とフランス革命の歴史的背景を理解し、近代市民社会における民主主義発祥の過程を理解する。 2．ヨーロッパ社会が帝国主義を推進していくなかで、非ヨーロッパ社会を植民地化していく過程を理解する。そして帝国主義の対立が世界大戦へと向かっていったことを知る。 3．冷戦が解消された後に、吹き出てきた民族紛争の問題をその民族の歴史的背景をふまえて理解することで世界史のまとめとする。			
学期	単元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	欧米における工業化と国民国家の形成	2 年次学習内容の復習 激化する経済覇権抗争 工業化による経済成長と社会問題の発生 合衆国とラテンアメリカ諸国の独立 フランス革命とウィーン体制 自由主義の台頭と新しい革命の波	・近現代史を理解する下地として前近代史の内容を完成させる。 ・18 世紀後半にイギリスの覇権が確立した経緯を理解するとともにその理由を政治、経済などの様々な側面から考察する姿勢を培う。また近代資本主義社会が抱える矛盾について当時の世界におこった歴史的事象を通じて認識を深める。	
	産業資本主義の発展と帝国主義	イギリスの覇権とヨーロッパ諸国 南北アメリカの発展 第 2 次産業革命と社会生活の変化 植民地獲得競争と動揺する世界秩序	・ヨーロッパによる侵略を受ける前のアジア諸国の様子を概観するとともに、それらの国々の前近代的な社会体制が植民地支配の対象にされるにいたった理由を説明できるようにする。	
	アジア諸地域の変革運動	西アジアの改革運動 南アジア・東南アジアの植民地化と民族運動の黎明 清の動揺と変貌する東アジア	・産業革命後のヨーロッパと他の地域との経済的なつながりから帝国主義政策がとられた背景を理解し、ナショナリズムや社会主義運動などとの関係についても説明できるようにする。	
2	世界戦争の時代	第一次世界大戦 ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編 大戦後の合衆国とヨーロッパ アジア・アフリカでの国家形成の動き 世界恐慌と国際対立の激化 第二次世界大戦	・ヨーロッパを中心とした世界の一体化と世界大戦のとの関係について、ナショナリズムの問題に触れながら説明できるようにする。 ・ナショナリズムや社会主義革命の影響をふまえて、ファシズムが台頭した経緯をドイツを中心とした視点から捉えられるようにし、またこれに対抗する形でのアメリカを中心とした国際政治について、その流れを述べるができるようにする。	
	戦後世界秩序の形成	冷戦の形成と展開 植民地の独立と世界政治 東アジアの「熱い戦争」と経済発展 合衆国の覇権の動揺と再編	・国際連盟が第二次世界大戦の勃発を防止できなかった原因を追究し、現在の国際連合が設立された経緯と問題点について認識を深める。 ・1960 年代からの国際政治の多極化について、第三世界や米ソそれぞれの陣営における独自路線の動きをとる国々の動向を事例として背景となる要因を説明できるようにする。	
3	情報革命と世界経済の一体化	情報革命とグローバル化 冷戦の終結と新たな世界秩序 21 世紀の地球的課題と地域世界	・1 年次における「現代社会」での既習事項と結びつけることができるようにする。 ・現代世界の諸課題について、歴史的観点から概略を把握できるようにする。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 世界史B	普通科 3 学年 (体育コース)	3	世界史B (東京書籍)	ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店) 世界史B用語集 (山川出版社) 世界史重要語句チェックリスト (啓隆社)
科目の概要 と目標	1. 近代市民社会の目覚めとなるアメリカ独立戦争とフランス革命の歴史的背景を理解し、近代市民社会における民主主義発祥の過程を理解する。 2. ヨーロッパ社会が帝国主義を推進していくなかで、非ヨーロッパ社会を植民地化していく過程を理解する。そして帝国主義の対立が世界大戦へと向かっていったことを知る。 3. 冷戦が解消された後に、吹き出てきた民族紛争の問題をその民族の歴史的背景をふまえて理解することで世界史のまとめとする。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	欧米における工業化と国民国家の形成 産業資本主義の発展と帝国主義 アジア諸地域の变革運動	2 年次学習内容の復習 激化する経済覇権抗争 工業化による経済成長と社会問題の発生 合衆国とラテンアメリカ諸国の独立 フランス革命とウィーン体制 自由主義の台頭と新しい革命の波 イギリスの覇権とヨーロッパ諸国 南北アメリカの発展 第 2 次産業革命と社会生活の変化 植民地獲得競争と動揺する世界秩序 西アジアの改革運動 南アジア・東南アジアの植民地化と民族運動の黎明 清の動揺と変貌する東アジア	・近現代史を理解する下地として前近代史の内容を完成させる。 ・18 世紀後半にイギリスの覇権が確立した経緯を理解するとともにその理由を政治、経済などの様々な側面から考察する姿勢を培う。また近代資本主義社会が抱える矛盾について当時の世界におこった歴史的事象を通じて認識を深める。 ・ヨーロッパによる侵略を受ける前のアジア諸国の様子を概観するとともに、それらの国々の前近代的な社会体制が植民地支配の対象にされるにいたった理由を説明できるようにする。 ・産業革命後のヨーロッパと他の地域との経済的なつながりから帝国主義政策がとられた背景を理解し、ナショナリズムや社会主義運動などとの関係についても説明できるようにする。	
2	世界戦争の時代 戦後世界秩序の形成	第一次世界大戦 ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編 大戦後の合衆国とヨーロッパ アジア・アフリカでの国家形成の動き 世界恐慌と国際対立の激化 第二次世界大戦 冷戦の形成と展開 植民地の独立と世界政治 東アジアの「熱い戦争」と経済発展 合衆国の覇権の動揺と再編	・ヨーロッパを中心とした世界の一体化と世界大戦のとの関係について、ナショナリズムの問題に触れながら説明できるようにする。 ・ナショナリズムや社会主義革命の影響をふまえて、ファシズムが台頭した経緯をドイツを中心とした視点から捉えられるようにし、またこれに対抗する形でのアメリカを中心とした国際政治について、その流れを述べるができるようにする。 ・国際連盟が第二次世界大戦の勃発を防止できなかった原因を追究し、現在の国際連合が設立された経緯と問題点について認識を深める。 ・1960 年代からの国際政治の多極化について、第三世界や米ソそれぞれの陣営における独自路線の動きをとる国々の動向を事例として背景となる要因を説明できるようにする。	
3	情報革命と世界経済の一体化	情報革命とグローバル化 冷戦の終結と新たな世界秩序 21 世紀の地球的課題と地域世界	・1 年次における「現代社会」での既習事項と結びつけることができるようにする。 ・現代世界の諸課題について、歴史的観点から概略を把握できるようにする。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 地理 A	普通科・2年 工業科・3年 商業科・3年	2	高等学校新地理 A（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	図説地理資料世界の諸地域NOW （帝国書院）
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none">・ 地図に関する基本的知識と地図の活用について理解させる。・ 各種の地形の特色を理解させ、それが人間生活に果たしている役割と意味を考えさせる。・ 世界の気候区の特色を理解させ、人間生活との関係について考察させる。・ 世界の農業地域の区分と農業形態の基礎的知識を理解させる。・ 世界の主なエネルギー・鉱産資源の特徴を理解させる。			
学 期	単 元	学 習 内 容		到 達 度 目 標
1	地球儀や地図からとらえる現代社会	地球上の位置 経度の違いと時差 球面と平面の世界 国家の領域と国境 日本の領域と領土問題		<ul style="list-style-type: none">・ いろいろな図法の特色を理解できる。・ 時差のしくみを理解し、実生活に生かすことができる。・ 地形図の基本的な利用技術を身につける。
	人間生活を取り巻く環境	世界の大地形と人々の生活 山地・平野の地形と人々の生活 その他の地形		<ul style="list-style-type: none">・ 地形と人間生活との関係について具体的に考えることができる。
	グローバル化が進む世界	世界を結ぶ交通・通信 拡大する世界の貿易		<ul style="list-style-type: none">・ 現代世界のグローバル化の実態を具体的に捉える。
2	人間生活を取り巻く環境	生活と気候のかかわり 熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 人々の生活と産業		<ul style="list-style-type: none">・ 気候環境が人間活動に及ぼす影響について考えることができる。・ ケッペンの気候区分の概要を理解する。・ 世界の多様な気候と文化の違いを具体的にイメージすることができる。
	世界の諸地域の生活・文化	中国、インド、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの生活・文化		<ul style="list-style-type: none">・ 農業形態の地域分化を理解できる。・ 食料問題の現状を知り、その解決策を考える。
	日本の自然環境と防災	火山・地震災害と防災		<ul style="list-style-type: none">・ 日本の地形や気候の特徴と自然災害を結びつけて考える。
3	地球的課題と私たち	世界の資源・エネルギー問題 世界の人口問題 世界の食料問題 世界の都市・居住問題		<ul style="list-style-type: none">・ 世界の資源の偏在を正しく認識することができる。・ 南北間の経済格差を捉え、その解決策を考えることができる。
	近隣諸国が取り組む課題と日本の役割	世界の環境問題 森林破壊・大気汚染への取り組み		<ul style="list-style-type: none">・ 世界的な広い視野で環境問題などさまざまな問題を考えることができる。

教科・科目	対象学 科・学年	単位数	教 科 書	使 用 教 材
地理歴史 地理 B	普通科 2 年 (体育コース)	3	新詳地理 B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	新詳地理資料 2022（東京法令出版） 新地理要点ノート（啓隆社）
科目の概要 と目標		<ul style="list-style-type: none">・ 地表面上のさまざまな地形の特色を理解し、人々の生活にどのような影響を与えているかを考察する。・ 人々の生活が気候と密接に関連していることを、ケッペンの気候区分を通して考察する。・ 世界の農業地域の区分と農業形態の基礎的知識を理解し、諸地域で起きている食糧問題を考察する。・ 世界の主なエネルギー・鉱山資源や工業地域の特徴を理解する。・ 世界の諸地域に住む人々の生活様式には、いろいろな要因・形態があることを考察する。・ 世界の諸地域を調査する手順・方法について理解する。		
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	さまざまな地図と 地理的技能 自然環境と生活	地図の種類とその利用 世界の大地形と小地形 世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と 人々の生活 環境問題	<ul style="list-style-type: none">・ 現代世界の地図の有用性に気づくとともに、時代背景や地図の中心の違いなどによって世界観が変化することについて考察する。・ 陸地がどのような過程で形成されたかを理解し、さまざまな地形と人々の生活との関係について具体的に考えることができる。・ 世界の気候分布と、そこに暮らしている人々の生活の違いを資料・図・写真や作業を通して考えることができる。・ 世界と日本の自然環境や生活の違いを理解できる。・ 世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的な分布を大観し、日本の環境問題の特徴と対策について考えることができる。	
2	資源と産業	産業の発達と変化 世界の農林水産業 食料問題	<ul style="list-style-type: none">・ 各種産業は地形や気候と関連して展開されていることがわかる。・ 農業形態の地域分化を理解し、農産物の生産地や流通状況を把握することができる。・ 世界の農業における問題や自給率の少ない日本の現状を理解できる。・ 水産業や林業の発達条件や水産物、木材の流通について考えることができる。	
	世界のエネルギー・ 鉱産資源	エネルギー資源の 利用と分布 鉱産資源の分布	<ul style="list-style-type: none">・ 地球上の資源の分布とエネルギー資源の使用状況について理解できる。・ 工業の立地条件をさまざまな観点から考察することができる。	
3	資源・エネルギー問題	現代世界の資源・ エネルギー問題 日本の資源・ エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none">・ 鉱産資源やエネルギー資源の使用状況を踏まえ、先進国が世界に与える影響を考察することができる。	
	世界の工業	工業の発達と立地 世界の工業地域 現代世界の工業の 現状と課題 日本の工業	<ul style="list-style-type: none">・ 工業の立地条件をさまざまな観点から考え、工業地域の変容について理解することができる。・ 大国の工業の変容と発展途上国の工業化の経緯を理解することができる。	

教科・科目	対象学 科・学年	単位数	教 科 書	使 用 教 材
地理歴史 地理B	普通科 2年 (文系)	4	新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	新詳地理資料 2022（東京法令出版） 新地理要点ノート（啓隆社）
科目の概要 と目標	・地表面上のさまざまな地形の特色を理解し、人々の生活にどのような影響を与えているかを 考察する。 ・人々の生活が気候と密接に関連していることを、ケッペンの気候区分を通して考察する。 ・世界の農業地域の区分と農業形態の基礎的知識を理解し、諸地域で起きている食糧問題を考 察する。 ・世界の主なエネルギー・鉱山資源や工業地域の特徴を理解する。 ・世界の諸地域に住む人々の生活様式には、いろいろな要因・形態があることを考察する。 ・世界の諸地域を調査する手順・方法について理解する。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	さまざまな地図と 地理的技能 自然環境と生活	地図の種類とその利用 世界の大地形と小地形 世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と 人々の生活 環境問題	・現代世界の地図の有用性に気づくとともに、 時代背景や地図の中心の違いなどによって世界 観が変化することについて考察する。 ・陸地がどのような過程で形成されたかを理解 し、さまざまな地形と人々の生活との関係につ いて具体的に考えることができる。 ・世界の気候分布と、そこに暮らしている人々 の生活の違いを資料・図・写真や作業を通して 考えることができる。 ・世界と日本の自然環境や生活の違いを理解で きる。 ・世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的 な分布を大観し、日本の環境問題の特徴と対策 について考えることができる。	
2	資源と産業	産業の発達と変化 世界の農林水産業 食料問題	・各種産業は地形や気候と関連して展開されて いることがわかる。 ・農業形態の地域分化を理解し、農産物の生産 地や流通状況を把握することができる。 ・世界の農業における問題や自給率の少ない日 本の現状を理解できる。 ・水産業や林業の発達条件や水産物、木材の流 通について考えることができる。	
	世界のエネルギー・ 鉱産資源	エネルギー資源の 利用と分布 鉱産資源の分布	・地球上の資源の分布とエネルギー資源の使用 状況について理解できる。 ・工業の立地条件をさまざまな観点から考察す ることができる。	
3	資源・エネルギー問題	現代世界の資源・ エネルギー問題 日本の資源・ エネルギー問題	・鉱産資源やエネルギー資源の使用状況を踏ま え、先進国が世界に与える影響を考察すること ができる。	
	世界の工業	工業の発達と立地 世界の工業地域 現代世界の工業の 現状と課題 日本の工業	・工業の立地条件をさまざまな観点から考え、 工業地域の変容について理解することができる。 ・大国の工業の変容と発展途上国の工業化の経 緯を理解することができる。	

教科・科目	対象学 科・学年	単位数	教 科 書	使 用 教 材
地理歴史 地理 B	普通科 2 年 (理系)	2	新詳地理 B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	新詳地理資料 2022（東京法令出版） 新地理要点ノート（啓隆社）
科目の概要 と目標		・ 地表面上のさまざまな地形の特色を理解し、人々の生活にどのような影響を与えているかを 考察する。 ・ 人々の生活が気候と密接に関連していることを、ケッペンの気候区分を通して考察する。 ・ 世界の農業地域の区分と農業形態の基礎的知識を理解し、諸地域で起きている食糧問題を考 察する。 ・ 世界の主なエネルギー・鉱山資源や工業地域の特徴を理解する。 ・ 世界の諸地域に住む人々の生活様式には、いろいろな要因・形態があることを考察する。 ・ 世界の諸地域を調査する手順・方法について理解する。		
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	さまざまな地図と 地理的技能 自然環境と生活	地図の種類とその利用 世界の大地形と小地形 世界の地形 世界の気候 日本の自然の特徴と 人々の生活 環境問題	・ 現代世界の地図の有用性に気づくとともに、 時代背景や地図の中心の違いなどによって世界 観が変化することについて考察する。 ・ 陸地がどのような過程で形成されたかを理解 し、さまざまな地形と人々の生活との関係につ いて具体的に考えることができる。 ・ 世界の気候分布と、そこに暮らしている人々 の生活の違いを資料・図・写真や作業を通して 考えることができる。 ・ 世界と日本の自然環境や生活の違いを理解で きる。 ・ 世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的 な分布を大観し、日本の環境問題の特徴と対策 について考えることができる。	
2	資源と産業	産業の発達と変化 世界の農林水産業 食料問題	・ 各種産業は地形や気候と関連して展開されて いることがわかる。 ・ 農業形態の地域分化を理解し、農産物の生産 地や流通状況を把握することができる。 ・ 世界の農業における問題や自給率の少ない日 本の現状を理解できる。 ・ 水産業や林業の発達条件や水産物、木材の流 通について考えることができる。	
	世界のエネルギー・ 鉱産資源	エネルギー資源の 利用と分布 鉱産資源の分布	・ 地球上の資源の分布とエネルギー資源の使用 状況について理解できる。 ・ 工業の立地条件をさまざまな観点から考察す ることができる。	
3	資源・エネルギー問題	現代世界の資源・ エネルギー問題 日本の資源・ エネルギー問題	・ 鉱産資源やエネルギー資源の使用状況を踏ま え、先進国が世界に与える影響を考察すること ができる。	
	世界の工業	工業の発達と立地 世界の工業地域 現代世界の工業の 現状と課題 日本の工業	・ 工業の立地条件をさまざまな観点から考え、 工業地域の変容について理解することができる。 ・ 大国の工業の変容と発展途上国の工業化の経 緯を理解することができる。	

教科・科目	対象学 科・学年	単位数	教 科 書	使 用 教 材
地理歴史 地理 B	普通科 3 年	3	新詳地理 B（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	新編地理資料 2021（東京法令出版） 新地理要点ノート（啓隆社） ウィニングコンパス地理の整理と演習 （東京法令出版）
科目の概要 と目標		・科学技術の発達による工業の変遷と、工業化に伴う経済発達による地域格差を理解する。 ・都市と村落の立地条件や機能などを理解し、都市化に伴い発生する都市問題を考察する。 ・世界の諸地域の特色を、それぞれの地域に住む人々の生活と関連させて理解するとともに、世界の地域や国々がどのように結びついているかを考察する。 ・国際社会における日本の役割について考察する。		
学 期	単 元		学 習 内 容	到 達 度 目 標
1	資源と産業 第 3 次産業 交通・通信 現代世界の貿易と 経済圏 人口、村落・都市 世界の人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題 生活文化、民族・宗教		第 3 次産業 交通・通信 貿易と経済圏 世界の人口問題 発展途上国・先進国・ 日本の人口問題 集落の成り立ち 村落の形態と機能 都市の機能と生活 世界の都市・居住問題 民族・宗教、領土問題	・グローバル化と格差をキーワードに、現代世界の第三次産業、交通・通信、貿易の動向について理解することができる。 ・世界の人口問題を大観し、その要因や対策をとらえ、日本の人口問題の課題と解決への取り組みを考察することができる。 ・村落と都市の立地条件や機能、諸問題に関して、先進国と発展途上国では違いがあることを理解することができる。 ・世界の衣食住に地域的差異があることに気づくとともに、世界的に画一化が進む現状を知り、日本の衣食住の特徴やその変化について考察することができる。
2	現代世界の諸地域 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジア アフリカ ヨーロッパ		地誌の考察方法 中国の農業、工業化と 経済発展 ASEAN 諸国 インドの農業、工業・ I T 産業 イスラム文化 一次産品への依存 ヨーロッパの農業・工 業、E U 成立	・どのような観点から地域区分が行われているかを具体的に考察することができる。 ・地誌的に捉えながら、2 年間の学習のまとめとする。 ・諸地域の歴史的変遷を見落とさず考察することができる。 ・さまざまな地域が発展する要因を他国との関係から具体的に考察することができる。
3	ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 現代世界と日本		ロシア産業の変化 アメリカの農業、科学 技術と産業 世界の中のアメリカ 鉱産資源と工業化 アジア諸国との結び つき	・各国の発展の取り組みは、他国とどのような協力体制が成り立っているかを具体的に考察することができる。 ・現代世界において日本が抱える地理的な諸課題について、多面的・多角的に考察し、探究する活動を通して、その解決の方向性や将来像について考察することができる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 日本史A		普通科2年 工業科3年 商業科3年	2	高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来(第一学習社)	プロムナード日本史(浜島書店)
科目の概要		<ul style="list-style-type: none"> 幕末期の政治的変遷の様子を様々な政治運動の動向に注目しながら理解する。 日本における立憲国家の成立過程とその特色について、富国強兵政策の内容と自由民権運動の盛衰を視点に据えながら理解する。 日清戦争から第二次世界大戦に至るまでの植民地支配と経済および国民生活の様子について、相互の關係に着目しながらその変遷を学習する。 日本国憲法と戦後体制の成立過程を学ぶとともに、憲法の理念と国際協調との間で生じた新たな問題について、その内容を理解し、解決の方法を考察する姿勢を培う。 			
科目の目標		<ol style="list-style-type: none"> 近代日本において成立し、現代に連なる政治・経済・文化の営みについて、先人の取り組みを学び、残された課題を自身の問題として考察する姿勢を培う。 政治、経済、文化の各分野における問題が相互に関連していたことを理解しながら、近代以降の日本の歴史が常に国際社会の影響を受けて変遷していたことを学ぶ。 			
学期	単元	学習内容		到達度目標	
1	1 私たちの時代と歴史 2 近現代の日本と世界 (1) 近代国家の形成と国際関係の推移	近現代学習のはじめに 近代への胎動 開国と幕末の動乱 近代国家の形成 国際関係の推移と近代産業の発展	鎖国に至った背景を世界情勢や幕藩体制構築との関係から説明できるようにする。 欧米のアジア侵略とともに国内における経済発展や思想・文化の動向をふまえたうえで、開国の過程を述べるようにする。 様々な勢力や政治運動について、共通点と相違点をふまえたうえで、倒幕へと至った経緯が理解できるようにする。 自由民権運動の盛衰を政府による立憲国家樹立の動きと絡めて説明できるようにする。 当時の近代産業による資本主義体制の樹立が、侵略戦争による植民地支配とも深く関与していたことを認識できるようにする。		
2	(2) 両大戦をめぐる国際情勢	第一次世界大戦と日本 第二次世界大戦と日本	経済発展による国民生活の向上と民衆の政治運動への参加および政党政治の成立との関係を具体的な歴史事象をあげて説明できるようにする。 第一次世界大戦に参戦した目的を当時の国内および海外情勢に照らして説明できるようにする。 戦争の長期化や敗戦必至の状況に突入することを防止できなかった原因と終戦決定の遅れが生じた背景について、政治・社会体制と絡めて考察する姿勢を持たせる。		
3	(3) 現代の日本と世界	日本の再出発 独立後の政治と経済の発展 現代の日本と世界	戦後の民主的改革と経済復興にいたる変遷について、米ソの冷戦を基軸とした国際政治の視点から説明できるようにする。 独立後の日本における政治や経済について、日本国憲法と米国を中心とする国際社会の観点から理解できるようにする。		

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 日本史B		普通科 2 学年 (体育コース)	3	詳説 日本史 改訂版 (山川出版社)	詳説日本史図録 (山川出版社) 日本史 重要語句 Check List 2022 (啓隆社) ポテンシャル日本史基礎力養成編 (さんぺい出版)
科目の概要 と目標		○古代日本人の生活、信仰、文化を理解するとともに、大陸との交渉を通しての影響の重要性を把握する。 ○中央政府のあった京都から地方への政治、経済、文化の広まりと成長が、今日の日本の土台となっていることを理解する。 ○今日の町や村の土台となった地域の形成、戦国大名による地方の国別支配、ヨーロッパ人の来航と新文化の伝来、豊臣秀吉の全国統一を理解する。			
学期	単 元		学 習 内 容		到 達 度 目 標
1	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成		文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代 天平文化 平安王朝の形成		○日本における最初の文化とその形成過程、大陸との交渉と文化の伝来について理解できる。 ○国内を統一した政権、大陸との外交関係、聖徳太子の政治と最初の仏教文化について理解できる。 ○隋・唐の律令制の導入と日本的社会の形成、唐の清新な文化の輸入について理解できる。 ○律令政治の発展と農民の負担増大の様子、大仏造立と鎮護国家思想、荘園の成立について理解できる。
2	第3章 貴族政治と国風文化 第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立		摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士 院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化		○平安京（京都）の形成、天台・真言両宗の発展とその文化、藤原氏の摂関政治とその文化について理解できる。 ○私有地（荘園）の増大と中央・地方武士団の成長、院政の様子、平清盛の政治と文化について理解できる。 ○源頼朝の創った武家政権（幕府）、北条氏の執権政治、新旧仏教の鎌倉文化、元寇と幕府の衰退について理解できる。
3	第5章 武家社会の成長 第Ⅲ部 第6章 幕藩体制の確立		室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造		○後醍醐天皇と足利尊氏の争い、室町幕府の政治、自治村の成長、明との朝貢貿易と朝鮮・琉球・蝦夷への貿易政策について理解できる。 ○禅宗による文化の形成と戦国の動乱による文化の地方分散について理解できる。 ○ヨーロッパ人の来航と鉄砲、キリスト教の伝来について理解できる。 ○天下統一者である織田信長、豊臣秀吉の政治と文化について理解できる。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 日本史B	普通科 2 学年 (文系)	4	詳説 日本史 改訂版 (山川出版社)	詳説日本史図録 (山川出版社) 日本史 重要語句 Check List 2 0 2 2 (啓隆社) ポテンシャル日本史基礎力養成編 (さんべい出版)
科目の概要 と目標	○古代日本人の生活、信仰、文化を理解するとともに、大陸との交渉を通しての影響の重要性を把握する。 ○中央政府のあった京都から地方への政治、経済、文化の広まりと成長が、今日の日本の土台となっていることを理解する。 ○今日の町や村の土台となった地域の形成、戦国大名による地方の国別支配、ヨーロッパ人の来航と新文化の伝来、豊臣秀吉の全国統一を理解する。			
学期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳とヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家への道 平城京の時代 天平文化 平安王朝の形成	○日本における最初の文化とその形成過程、大陸との交渉と文化の伝来について理解できる。 ○国内を統一した政権、大陸との外交関係、聖徳太子の政治と最初の仏教文化について理解できる。 ○隋・唐の律令制の導入と日本的社会の形成、唐の清新な文化の輸入について理解できる。 ○律令政治の発展と農民の負担増大の様子、大仏造立と鎮護国家思想、荘園の成立について理解できる。	
2	第3章 貴族政治と国風文化 第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立	摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士 院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	○平安京（京都）の形成、天台・真言両宗の発展とその文化、藤原氏の摂関政治とその文化について理解できる。 ○私有地（荘園）の増大と中央・地方武士団の成長、院政の様子、平清盛の政治と文化について理解できる。 ○源頼朝の創った武家政権（幕府）、北条氏の執権政治、新旧仏教の鎌倉文化、元寇と幕府の衰退について理解できる。	
3	第5章 武家社会の成長 第Ⅲ部 第6章 幕藩体制の確立	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造	○後醍醐天皇と足利尊氏の争い、室町幕府の政治、自治村の成長、明との朝貢貿易と朝鮮・琉球・蝦夷への貿易政策について理解できる。 ○禅宗による文化の形成と戦国の動乱による文化の地方分散について理解できる。 ○ヨーロッパ人の来航と鉄砲、キリスト教の伝来について理解できる。 ○天下統一者である織田信長、豊臣秀吉の政治と文化について理解できる。	

教科・科目	対象学 科・学年	単位数	教 科 書	使 用 教 材
地理歴史 日本史 B	普通科 3 学年 (文系)	3	詳説日本史 改訂版（山川 出版社）	詳説日本史図録（山川出版社）、 日本史 重要語句 Check List 2021 ポテンシャル日本史基礎力養成編（さんぺい出版）
科目の概要 と目標		<ul style="list-style-type: none">幕藩体制化の江戸時代の政治、経済、社会、文化の諸相と、それらの歴史的推移・変容を理解させる。ヨーロッパ帝国主義諸国のアジアへの波及、明治新政府による近代国家の形成、資本主義経済と大陸侵略の経過、第一次世界大戦と大正デモクラシー、大衆文化の成熟、世界恐慌と日中戦争・第二次世界大戦の流れを理解させる。第二次世界大戦後の民主化政策と国際社会への復帰、高度経済成長と国際関係の多様化、日本の国内外の課題について把握させる。		
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	第Ⅲ部 近世 第 7 章 幕藩体制の展開	幕政の安定 経済の発展 元禄文化	儒学各派の思想と当時の政治・文化との関連を理解できる。	
	第 8 章 幕藩体制の動揺	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代化への道 化政文化	三大改革の政治・社会的原因を述べられる。 庶民文化の様相、時代が生んだ新思想の形成を理解できる。	
	第Ⅳ部 近代・現代 第 9 章 近代国家の成立	開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日清戦争	開国後の国内情勢の推移と幕府の滅亡の過程が理解できる。 明治新政府の成立過程、西洋文化の摂取、憲法と議会による政治の成立過程が理解できる。	
2		日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達	日本における資本主義の成立、対外戦争との関わり、新時代の和洋両文化が理解できる。	
	第 10 章 二つの世界大戦と アジア	第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	帝国主義列強の一員としての動向、大正デモクラシーの様子、大衆文化の内容が理解できる。 1920 年代の慢性的恐慌の経過と十五年戦争およびその戦時体制について具体的に説明できる。	
	第 11 章 占領下の日本	占領と改革 冷戦の開始と講話	民主化政策（新憲法の制定など）、戦後の経済復興等について理解できる。	
	第 12 章 高度成長の時代	55 年体制 経済復興から高度成長へ	国際社会への復帰、高度成長から低成長の時代への移行について理解できる。	
3	第 13 章 激動する世界と日本	経済大国への道 冷戦終結と日本社会の変容	国際化の諸相を理解するとともに、現代の国際社会における日本の役割を認識できる。	
	まとめ・問題演習	学習のまとめ	2 年間の学習を振り返り、総まとめができる。	

教科・科目		対象学 科・学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史 日本史 B		普通科 3 学年 (体育コース)	3	詳説日本史 改訂版 (山川 出版社)	詳説日本史図録 (山川出版社)、 日本史 重要語句 Check List 2021 ポテンシャル日本史基礎力養成編 (さんぺい出版)
科目の概要 と目標		<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制化の江戸時代の政治、経済、社会、文化の諸相と、それらの歴史的推移・変容を理解させる。 ヨーロッパ帝国主義諸国のアジアへの波及、明治新政府による近代国家の形成、資本主義経済と大陸侵略の経過、第一次世界大戦と大正デモクラシー、大衆文化の成熟、世界恐慌と日中戦争・第二次世界大戦の流れを理解させる。 第二次世界大戦後の民主化政策と国際社会への復帰、高度経済成長と国際関係の多様化、日本の国内外の課題について把握させる。 			
学 期	単 元		学 習 内 容		到 達 度 目 標
1	第Ⅲ部 近世 第 7 章 幕藩体制の展開		幕政の安定 経済の発展 元禄文化		儒学各派の思想と当時の政治・文化との関連を理解できる。
	第 8 章 幕藩体制の動揺		幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代化 への道 化政文化		三大改革の政治・社会的原因を述べられる。 庶民文化の様相、時代が生んだ新思想の形成を理解できる。
	第Ⅳ部 近代・現代 第 9 章 近代国家の成立		開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日 清戦争		開国後の国内情勢の推移と幕府の滅亡の過程が理解できる。 明治新政府の成立過程、西洋文化の摂取、憲法と議会による政治の成立過程が理解できる。
2			日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達		日本における資本主義の成立、対外戦争との関わり、新時代の和洋両文化が理解できる。
	第 10 章 二つの世界大戦と アジア		第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民生活の変容と大 衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦		帝国主義列強の一員としての動向、大正デモクラシーの様子、大衆文化の内容が理解できる。 1920 年代の慢性的恐慌の経過と十五年戦争およびその戦時体制について具体的に説明できる。
	第 11 章 占領下の日本		占領と改革 冷戦の開始と講話		民主化政策 (新憲法の制定など)、戦後の経済復興等について理解できる。
	第 12 章 高度成長の時代		55 年体制 経済復興から高度成 長へ		国際社会への復帰、高度成長から低成長の時代への移行について理解できる。
3	第 13 章 激動する世界と日本		経済大国への道 冷戦終結と日本社会 の変容		国際化の諸相を理解するとともに、現代の国際社会における日本の役割を認識できる。
	まとめ・問題演習		学習のまとめ		2 年間の学習を振り返り、総まとめができる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書		使用教材	
地理歴史・歴史総合		普通科1年 工業科1年 商業科1年	2	現代の歴史総合（山川出版社）		新詳 歴史総合(浜島書店) 歴史総合問題集（山川出版社） 高校生のためのふるさと富山（富山県教育委員会）	
科目の概要と目標		おもに 18 世紀以降の時代を扱う。 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。					
月	単元	学 習 内 容	評価方法				
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4 月 ～ 7・ 8 月	第 1 章 第 2 章 第 3 章 (ふるさと富山)	・ 18 世紀の東アジアにおける社会と経済 ・ 貿易が結んだ世界と日本 ・ 産業革命～市民革命 ・ 国民国家とナショナリズム～植民地独立 ・ 生活様式の変化 ～ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	・ 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象を、広く相互的な視野から捉え、表現する。	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決する態度を養う。		
9 月 ～ 12 月	第 4 章 第 5 章 (ふるさと富山)	・ ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ～世界恐慌の時代 ・ ファシズムの伸長と共産主義 ～占領と戦後改革 ・ 冷戦下の地域紛争と脱植民地化 ～軍拡競争から緊張緩和へ	・ 地図や統計、絵画、文書などから、情報を読みとりまとめる技能を身につける。	・ 様々な資料を活用し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について考察・表現する。 ・ 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、比較・関連づけ、考察し表現する。	・ 大衆化にともなう生活や社会の変容について考察し、自分自身の問いを見つける。 ・ 自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことを見出して学習に取り組む。		
1 月 ～3 月	第 6 章 (ふるさと富山)	・ アジア諸地域の経済発展 ～東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 ・ アジア諸地域の経済発展	・ 資料から問いを立て、経緯や背景、共通点や相違点という視点から整理することができる。	・ 歴史的な見方や考え方を活用することで、現在の課題解決に結びつけることができる。 ・ 「近代化と私たち」の学習を振り返り、次の学習へのつながりや課題を見いだそうとする。	・ 自身が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことを見出して学習に取り組もうとする。 ・ 分析や考察の結果を他者と共有・比較し、自身の考えをより良いものに改善しようとする。		

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
数学 I		1 年 工業科 商業科	3	数学 I Standard（東京書籍）	Standard Buddy WRITE 数学 I （東京書籍）
科目の概要 と目標		数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6	数と式	多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1 次不等式 絶対値を含む 方程式・不等式	たすきがけによる因数分解およびやや複雑な因数分解ができる。 不等式の性質を理解し 1 次不等式が解ける。 絶対値のついた方程式・不等式が解ける。 整式に関する用語を確認し、加法・減法・乗法の計算ができる。 有理数・無理数・分母の有理化等の用語が定着し、計算ができる。 数の大小を不等号であらわすことができる。	式を 1 つの文字におき換えることによって，式の計算を簡略化することができる。 式の形の特徴に着目して変形し，因数分解の公式が用できるようにすることができる。 複雑な式についても，項を組み合わせる，降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで，因数分解をすることができる。	多項式の乗法には，数の場合と同様に分配法則が使えることに興味をもち，考察しようとする。 ・不等式の性質について，等式における性質と比較して，考察しようとする。 展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。
7	集 合 と 命題	集合 命題と条件 命題とその逆・対偶・裏 命題と証明	命題の真偽，反例の意味を理解し，集合の包含関係や反例を調べることができ。 必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義を理解している。 空集合，共通部分，和集合，補集合について理解している。 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し，それらの真偽を調べることができる。	条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・命題の条件や結論に着目し，命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで，命題を証明することができる。 条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・題が偽であることを示すには，反例を 1 つあげればよいことが理解できている。	直接証明法では難しい命題も，対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち，実際に証明しようとする。 命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。
8 9 10	2 次 関 数	関数とグラフ 2 次関数のグラフ 2 次関数の最大・最小 2 次関数の決定 2 次方程式 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 2 次不等式	2 次関数を $y=a(x-p)^2+q$ の形に式変形して，最大値，最小値を求めることができる。 2 次方程式の解き方として，因数分解，解の公式を理解している。 2 次不等式を解くことができる。 $f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解し，用いることができる。 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。	2 次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 2 次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。 2 次関数の特徴について，表，式，グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 2 次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを， $y=ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。	放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し，自ら調べようとする。 一般の 2 次関数 $y=ax^2+bx+c$ について，頂点，軸の式を考察しようとする。 2 次不等式を解くときに，図を積極的に利用する。
11 12	三角比	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理 の応用 三角形の面積 空間図形への応用	直角三角形において，正弦，余弦，正接が求められる。 $0^{\circ} \leq \theta \leq 180^{\circ}$ において，三角比の値から θ を求めることができる。 また，1 つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 正弦定理・余弦定理を利用して三角形の辺や角を求めることができる 三角比を利用して、平面図形や空間図形における線分の長さ・角の大きさ等の計算ができる	三角形の面積を，決定条件である 2 辺とその間の角または 3 辺から求めることができる。 空間図形への応用において，適当な三角形に着目して考察することができる。 三角比の表から $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の値を読み取ることができる。 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し，三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 正弦定理・余弦定理の図形的意味を考察する。 これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し，三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 三角比が与えられたときの θ を求める際に，図を積極的に 利用しようとする。
1 2 3	デー タ の 分 析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと 四分位数 分散と標準偏差 データの相関	平均値や最頻値，中央値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。 箱ひげ図をかき，データの分布を比較することができる。 分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。	変量の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができ，それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 散布図を作成し，2 つの変量の間の相関を考察することができる。 散らばりの度合いを示す量の意味と計算方法を習得 する。	データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 データの相関について，散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書	使 用 教 材
数学 I		1 年 普通科	3	新編 数学 I （数研出版）	教科書傍用 3TRIAL 数学 I +A（数研出版） チャート式 解法と演習 I +A（数研出版）
科目の概要 と目標		数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	数と式	多項式の加法と減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1 次不等式 絶対値を含む 方程式・不等式	たすきがけによる因数分解およびやや複雑な因数分解ができる。 不等式の性質を理解し 1 次不等式が解ける。 絶対値のついた方程式・不等式が解ける。 整式に関する用語を確認し、加法・減法・乗法の計算ができる。 有理数・無理数・分母の有理化等の用語が定着し、計算ができる。 数の大小を不等号であらわすことができる。	式を 1 つの文字におき換えることによって，式の計算を簡略化することができる。 式の形の特徴に着目して変形し，因数分解の公式が用できるようにすることができる。 複雑な式についても，項を組み合わせる，降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで，因数分解をすることができる。	多項式の乗法には，数の場合と同様に分配法則が使えることに興味をもち，考察しようとする。 ・不等式の性質について，等式における性質と比較して，考察しようとする。 展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。
6	集 合 と 命題	集合 命題と条件 命題とその逆・対偶・裏 命題と証明	命題の真偽，反例の意味を理解し，集合の包含関係や反例を調べることができ。 必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義を理解している。 空集合，共通部分，和集合，補集合について理解している。 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し，それらの真偽を調べることができる。	条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・命題の条件や結論に着目し，命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで，命題を証明することができる。 条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・題が偽であることを示すには，反例を 1 つあげればよいことが理解できている。	直接証明法では難しい命題も，対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち，実際に証明しようとする。 命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。
7 8 9	2 次 関 数	関数とグラフ 2 次関数のグラフ 2 次関数の最大・最小 2 次関数の決定 2 次方程式 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 2 次不等式	2 次関数を $y=a(x-p)^2+q$ の形に式変形して，最大値，最小値を求めることができる。 2 次方程式の解き方として，因数分解，解の公式を理解している。 2 次不等式を解くことができる。 $f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解し，用いることができる。 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。	2 次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 2 次関数の決定において，条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。 2 次関数の特徴について，表，式，グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 2 次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを， $y=ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。	放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 放物線のもつ性質に興味・関心を示し，自ら調べようとする。 一般の 2 次関数 $y=ax^2+bx+c$ について，頂点，軸の式を考察しようとする。 2 次不等式を解くときに，図を積極的に利用する。
10 11	三角比	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理 の応用 三角形の面積 空間図形への応用	直角三角形において，正弦，余弦，正接が求められる。 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において，三角比の値から θ を求めることができる。 また，1 つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 正弦定理・余弦定理を利用して三角形の辺や角を求めることができる 三角比を利用して、平面図形や空間図形における線分の長さ・角の大きさ等の計算ができる	三角形の面積を，決定条件である 2 辺とその間の角または 3 辺から求めることができる。 空間図形への応用において，適当な三角形に着目して考察することができる。 三角比の表から $\sin\theta, \cos\theta, \tan\theta$ の値を読み取ることができる。 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し，三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 正弦定理・余弦定理の図形的意味を考察する。 これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し，三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 三角比が与えられたときの θ を求める際に，図を積極的に 利用しようとする。
12	デー タ の 分 析	データの整理 データの代表値 データの散らばりと 四分位数 分散と標準偏差 データの相関	平均値や最頻値，中央値の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。 箱ひげ図をかき，データの分布を比較することができる。 分散，標準偏差の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて，分散，標準偏差を求めることができる。	変量の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができ，それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 散布図を作成し，2 つの変量の間の相関を考察することができる。 散らばりの度合いを示す量の意味と計算方法を習得 する。	データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 データの相関について，散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎		普通科・1年	2	化学基礎 academia（実教出版）	・新課程版アクセスノート化学基礎（実教出版） ・新訂版リピートノート化学①（浜島書店） ・新訂版リピートノート化学②（浜島書店）
科目の概要と目標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	化学と人間生活	生活の中での、さまざまな物質の利用について再発見をし、人間生活における役割について理解を深める。実験や観察を通して、探究の活動について理解を深める。	自然界のしくみには、基本的な概念・原理・法則があることを理解できる。基本的な実験を通し、観察法や実験の意味を考えることができる。	化学の成果が人間生活の向上に果たした役割を、具体例を踏まえて考察できる。	化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。
5	物質の探究 物質の構成粒子	物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 熱運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解し、知識として身につけている。実験において、質量や体積などの定量的な測定方法の技能が習得できているとともに、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。	原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。 物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 周期表から大まかな性質が判断できる。 物質の状態に関して観察、実験を行い、それらに関する技能を習得し、それらの測定結果から物質の状態について考察できる。	物質に関心をもち、物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとしている。 物質の状態変化の現象について、粒子の運動と関連付けて探究しようとする。
6 7	イオン結合 共有結合と分子間力 金属結合 化学結合と物質	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連づけて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間に働く力により物質ができていることを理解する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。物質の結晶を結合の違いによって区別し、性質を整理する。 具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。	物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異を代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。 物質は結合の違いによって性質に違いがあり、区別できることを理解している。 化学結合に関する観察、実験の操作や記録などの技能が習得でき、その結果より結論を表現できる。 それぞれ物質の、結合による性質の違いを利用し、物質を見わけける操作方法を選択できる。	物質の性質は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できる。 それぞれの物質について、結合によって区別することができる。 それぞれの物質の性質の性質を結合と関連付けて考えることができる。	物質の構造は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の仕方の違いに関わりがあることを意欲的に探究しようとする。 それぞれの結合とその結晶について、正確に区別し探究しようとする。 身近な物質について、結合によって区別し、性質や利用例を日常の事象と関連付けて探究しようとする。
8 9 10	物質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 科学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。	原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。また、物質量と溶液の濃度の関係を考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。 表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけている。	代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。
11 12	酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および pH について理解する。 酸と塩基の性質と中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応をとらえることができ、さらに中和反応の量的関係を理解している。 実験器具の取り扱いができると同時に、実験結果から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。	酸・塩基の強弱と pH の観察、実験などを通して、科学的に考察できる。また、酸・塩基の中和反応についても考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。	酸・塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて意欲的に探究しようとする。 身近な物質の pH を測定して考察するなど、身近な現象と酸・塩基反応を関連づけて意欲的に探究しようとする。
1 2	酸化還元反応	酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 酸化剤と還元剤の反応と酸化還元反応の起こりやすさを理解する。 酸化還元反応と日常生活や社会生活とのかわりについて理解する。	電子の授受や参加数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 酸化還元の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸化還元反応をとらえることができる。 代表的な酸化剤や還元剤の観察、実験の報告書を作成する中で、電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現することができる。 金属のイオン化傾向とそれらによる反応性の違いを理解し、実用電池や電気分解、金属の製錬など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。	さまざまな観察、実験を通し、酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。 酸化還元反応の例として、電池の実験を行い、その説明を科学的に表現できる。 実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見だし、論理的に考察し、科学的に判断できる。	燃焼、金属の溶解、実用電池の利用に興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究する。 身近な現象や金属の製錬と酸化還元反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
3	化学が拓く世界	生活を支える科学技術について再発見をし、化学技術の粋割について理解を深める。 化学に関わる科学技術について学び、化学を学ぶことに意欲をもつ。	日常生活や社会において、様々な科学技術に支えられていることを理解している。 安全な水道水を得るための科学技術、食品を保存するための科学技術、ものを洗浄するための科学技術等、化学が生活を豊かにするための課題を克服してきたことを知っている。	さまざまな観察・実験を通して、いかに日常生活や社会において科学技術が密接な関係にあるのかを理解し、関連づけて論理的に考察できる。 日常生活や社会から切り離せない安全な水道水の確保、食品の保存、ものを洗浄することなど、科学技術を通して、化学基礎で学んだことがどのようにいかされているかを考察し、科学的に判断できる。 食品中に含まれているビタミン C が、どのくらい含まれているかを酸化還元滴定の観察、実験の報告書を作成する中で、還元剤が食品にかわり酸化されることにより、食品が参加されることを防いでいることを、自ら考察して表現できる。	身近にある飲料水、食品、ものを洗浄する力など日常生活で不可欠なものに対して興味をもち、それらが化学基礎のどの分野と関連が深いかを意欲的に探究する。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎	工業科 3年	3	改訂化学基礎（東京書籍）	・リードL i g h tノート化学基礎（数研出版）
科目の概要と目標	1. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 2. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 3. 探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到達度 目 標	
1	序編化学と人間生活 第1編 物質の構成 1章 物質の探求 純物質と混合物・化合物と元素・物質の三態	・ろ過・蒸留・抽出・再結晶・クロマトグラフィー・同素体・炎色反応・拡散・絶対温度・状態変化・物理変化・化学変化	・混合物、純物質の違いや、化合物の違いについて理解できる。 ・同素体の意味と具体例が理解できる。 ・実験で炎色反応を理解する。 ・物理変化と化学変化の違いが説明できる。	
	2章 原子の構造と元素の周期表 ・元素の周期律と元素の性質	・陽子・中性子・電子・同位体・電子配置・価電子・周期律・周期表・金属と非金属・陽性と陰性	・原子の構造と原子番号、質量数、同位体の意味が理解できる。 ・最外殻電子と価電子の違いが説明できる。 ・アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン、希ガスの各グループを覚える。	
	3章 化学結合 ・イオン・イオン結合・共有結合・配位結合・分子間の結合・金属結合・化学結合と物質の分類用途	・イオンの電子配置・イオンの価数・イオン化エネルギー・電子親和力・イオン結晶・組成式・電子式・構造式・共有結合・共有結合の結晶・配位結合分子結晶・金属結合	・周期表が周期律により配列された元素の表であることを理解できる。 ・イオンの電子配置が理解できる。 ・イオン結合、共有結合および金属結合を結晶格子や分子模型等で説明できる。 ・塩の組成式が書ける。	
	第2編 物質の変化 1章 物質質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量・物質質量・溶液の濃度	原子量・分子量・式量・アボガドロ数・アボガドロの法則 質量パーセント濃度・モル濃度	・原子量、分子量、式量が相対質量であることを理解できる。 ・物質質量の計算ができる。 ・気体の密度が計算できる。 ・パーセント濃度をモル濃度に変換できる。	
2	・化学反応と量的関係	・化学反応式の書き方	・係数の比が物質質量の比であることを理解できる。 ・イオン反応式が書ける。	
	2章 酸と塩基 ・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の性質・アレニウスの定義・ブレンステッドとローリーの定義・価数・強弱・電離度・水素イオン濃度・pH・pH指示薬・身近な物質のpH	・酸塩基の電離式が書ける。 ・酸・塩基の性質や価数、また強弱と電離度の関係について理解できる。 ・水の電離、水素イオン濃度とpHの関係、酸塩基の強弱と滴定曲線の関係が理解できる。 ・身近な物質のpHについて理解できる。	
	・中和反応と塩の生成 ・中和滴定	・中和反応・塩の分類・塩の性質・弱酸の遊離・弱塩基の遊離・中和滴定・滴定曲線	・中和の条件、塩の加水分解が理解できる。 ・中和滴定の操作ができる。 ・滴定曲線が描ける。	
3	3章 酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤	・酸素、水素、電子の授受と酸化還元・酸化数 ・半反応式	・実際の酸化還元反応から酸化剤・還元剤の関係を理解できる。 ・酸化数を簡単に求めることができる。	
	・金属の酸化還元反応	・金属のイオン化傾向・反応性・電池の原理	・金属樹が理解できる。 ・イオン化傾向から反応がおきるかおきないかを判断できる	
	・電気分解 ・様々な酸化還元反応	・ボルタ電池・ダニエル電池・鉛蓄電池・電気分解・ファラデーの法則	・実験をとおして電池が説明できる。 ・金属のイオン化傾向を理解し、電池の仕組み、電気分解のしくみを理解できる。	

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・科学と人間生活		工業科商業科・1学年	2	科学と人間生活(東京書籍)	新課程 ニューサポート 科学と人間生活 (東京書籍)
科目の概要と目標		自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			
月	単 元	学 習 内 容	到達度目標		
			知識・技能	思考・判断・表現	主観的に学習に取り組む態度
4 5	さまざまな微生物	さまざまな微生物が身の回りに存在していることについての理解を深める。	・身の回りにはさまざまな微生物が存在しており、人間生活と密接な関わりがあることを理解できる。	・土壌微生物のはたらきについて、さまざまな条件の下での微生物のはたらきについてその根拠を踏まえて表現できる。	・微生物はいろいろな場所に存在するはずであると言うことを前提にした考え方ができる。
	私たちのくらしへの微生物の利用	微生物の発見とその私たちのくらしへの利用について理解する。	・生態系の中での炭素や窒素の循環における微生物の分解者としての役割について理解することができる。	・水中微生物の人間生活との関わりについて調べ、微生物を利用することのメリットやデメリットなどを多角的に考えることができる。	・授業を通じて知り得たことを参考にし、微生物について考えることができる。
6 7	科学技術の発展	科学技術の歴史と発展について理解する。 エネルギーや情報技術の発展について理解する。 持続可能な未来のエネルギーについて理解する。	・科学技術の発展が人間生活を豊かで便利にしてきたことや現代の人間生活に科学技術が不可欠であることを理解できる。	・科学技術が人間生活に果たす役割について考察し、表現できる。	・科学技術と人間生活の関わりに関心をもち、その役割や課題について考えることができる。
	リサイクルと何か	リサイクルと何かについての理解を深める。	・身の回りにあるさまざまなものの中のリサイクルすることができるものについて理解できる。	・授業で話し合った内容を元に、ガラスや金属、プラスチックなどについて、その種類に応じた分別やリサイクル方法について考えることができる。	・授業で話し合った内容を元に、材料削減、再利用、再生利用について、循環型社会の実現には何が必要かを考えて実施できる。
9 10	金属の性質とその再利用	金属の性質を知り、その再利用についての理解を深める。	・金属の種類による物理的な性質や化学的な性質の違いについて理解できる。		
	プラスチックの性質とその再利用	プラスチックの性質について知り、その再利用についての理解を深める。	・プラスチックの種類とそれらの性質や特性について理解できる。		
11 12	光の進み方とその基本的な性質	光の進み方とその波としての性質について理解する。	・物質の境界面での光の進み方に関して、反射や屈折、全反射について理解できる。	・授業で話し合った内容を元に普段の生活経験の中にある現象を想起し、考えて表現できる。	・具体的な教材を使っていろいろなものを見て、その現象と光の性質を見いだそうとすることができる。
	目に見える光と色の見え方	光の3原色と色についての理解を深める。	・光の分散や波長とスペクトルとの関係、偏光などの光の性質について理解できる。		
	目に見えない光とその利用	電磁波に利用について理解する。	紫外線や赤外線、電波やX線・γ線など、電磁波の種類と性質について理解できる。		
	太陽と月がもたらすリズム	太陽と月の運行について理解を深める。 海水面の変動と潮の満ち引きについての理解を深める。	・日、月、年という時間単位の定義や意味について、月や地球の運動と関連付けながら理解している。	・潮位の変化のデータを元に考察し、潮位の変化の周期性について表現することができる。	・授業で話し合った内容を元に、日、月、年が作られることについて表現することができる。
1 2	太陽が動かす大気と水	太陽の放射エネルギーについての理解を深める。 太陽がつくる大気と海洋の循環について理解する。	・潮位の変化のデータを正しくグラフに整理している。 ・潮の満ち引きと月の引力の関係や太陽、地球、月の位置関係による潮位の変動の周期性、高潮による被害について理解できる。		・潮位の変化のグラフを分析し、その結果を基に話し合うことができる。
	1年を通じた大気の運動と気象災害	1年を通じた大気の運動について理解を深め、気象災害について理解する。	・自然災害と自然現象の違いについて知り、防災・減災といった被害軽減の方法について理解できる。	・自然災害による被害と災害後の暮らしの困難さについて理解し、その被害軽減のための取り組みについて考えることができる。	・災害に対する備えとしてどのようなことが必要か、また被害軽減のためにできることはどんなことがあるかを考え、実践していくことができる。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎	普通科・2年(文系)	2	改訂版新編生物基礎（数研出版）	三訂版 リードLight ノート生物基礎（数研出版）
科目の概要と目標		1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
学期	単元		学習内容	到達度目標
1	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー 遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質合成		<ul style="list-style-type: none">多様な生物の共通点生物の共通性としての細胞エネルギーと代謝代謝に関わる酵素生体内におけるエネルギー変換ミトコンドリアと葉緑体の起源正確に伝わる遺伝情報DNA の構造ゲノムと遺伝情報細胞分裂と DNA の複製細胞周期と DNA の複製遺伝情報の流れ転写翻訳遺伝子の発現と生命現象	<ul style="list-style-type: none">生物の多様性と共通性について理解する。多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。エネルギーの通貨としての ATP について理解する。酵素の性質を理解する。ミトコンドリアが細胞呼吸の場となっていることを知る。光合成においてデンプンが合成されるしくみを理解する。遺伝子の本体としての DNA について理解する。体細胞分裂に伴う DNA の複製について理解する。染色体の構造について理解する。核の中で、DNA が塩基の相補性に基づき複製されるしくみを理解する。遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。DNA と RNA の構造について理解する。mRNA のコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを理解する。
2	生物の体内環境の維持 体内環境 体内環境の調節 免疫		<ul style="list-style-type: none">体内環境の特徴心臓と血液循環体内環境を調節する器官自律神経系による調節内分泌系による調節自律神経とホルモンによる協同作業免疫自然免疫適応免疫免疫とヒト	<ul style="list-style-type: none">体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などはたらきを理解する。酸素解離曲線から、酸素とヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解する。腎臓におけるろ過と再吸収のしくみを理解する。自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを理解する。異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除したりするしくみを学ぶ。ABO 式血液型の分類と、異型血液の輸血により凝集反応が引き起こされるしくみを理解する。体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。
3	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none">植生と生態系植生の遷移地球上の植生分布陸上のバイオーム生態系でのエネルギーの流れ生態系での物質の循環生態系のバランスと保全生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none">生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを理解する。気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみ、生態系の保全について理解する。東南アジア等に分布する熱帯多雨林における生物多様性を知り、気候条件との関係性を理解する。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎	普通科 2年 (理系)	2	改訂版新編生物基礎（数研出版）	三訂版 リードLight ノート生物基礎 (数研出版)
科目の概要 と目標	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none">多様な生物の共通点生物の共通性としての細胞エネルギーと代謝代謝に関わる酵素生体内におけるエネルギー変換ミトコンドリアと葉緑体の起源	<ul style="list-style-type: none">生物の多様性と共通性について理解する。多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。エネルギーの通貨としてのATPについて理解する。酵素の性質を理解する。ミトコンドリアが細胞呼吸の場となっていることを知る。光合成においてデンプンが合成されるしくみを理解する。	
	遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質合成	<ul style="list-style-type: none">正確に伝わる遺伝情報DNAの構造ゲノムと遺伝情報細胞分裂とDNAの複製細胞周期とDNAの複製遺伝情報の流れ転写翻訳遺伝子の発現と生命現象	<ul style="list-style-type: none">遺伝子の本体としてのDNAについて理解する。体細胞分裂に伴うDNAの複製について理解する。染色体の構造について理解する。核の中で、DNAが塩基の相補性に基づき複製されるしくみを理解する。遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。DNAとRNAの構造について理解する。mRNAのコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを理解する。	
	生物の体内環境の維持 体内環境	<ul style="list-style-type: none">体内環境の特徴心臓と血液循環	<ul style="list-style-type: none">体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などのはたらきを理解する。酸素解離曲線から、酸素とヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解する。腎臓におけるろ過と再吸収のしくみを理解する。	
2	体内環境の調節	<ul style="list-style-type: none">体内環境を調節する器官・自律神経系による調節内分泌系による調節自律神経とホルモンによる協同作業	<ul style="list-style-type: none">自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを理解する。	
	免疫	<ul style="list-style-type: none">免疫自然免疫適応免疫免疫とヒト	<ul style="list-style-type: none">異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除したりするしくみを学ぶ。ABO式血液型の分類と、異型血液の輸血により凝集反応が引き起こされるしくみを理解する。体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。	
	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none">植生と生態系植生の遷移地球上の植生分布陸上のバイオーム生態系でのエネルギーの流れ生態系での物質の循環生態系のバランスと保全生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none">生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを理解する。気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみ、生態系の保全について理解する。東南アジア等に分布する熱帯多雨林における生物多様性を知り、気候条件との関係性を理解する。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎	くすり・バイオ科 3年	3	改訂版 新編 生物基礎（数研出版）	リードLight ノート生物基礎(数研出版)
科目の概要と目標		1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー 遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質合成	・多様な生物の共通点 ・生物の共通性としての細胞 ・エネルギーと代謝 ・代謝に関わる酵素 ・生体内におけるエネルギー変換 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源 ・正確に伝わる遺伝情報 ・DNA の構造 ・ゲノムと遺伝情報 ・細胞分裂と DNA の複製 ・細胞周期と DNA の複製 ・遺伝情報の流れ ・転写 ・翻訳 ・遺伝子の発現と生命現象	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・エネルギーの通貨としての ATP について理解する。 ・酵素の性質を理解する。 ・ミトコンドリアが細胞呼吸の場となっていることを知る。 ・光合成においてデンプンが合成されるしくみを理解する。 ・遺伝子の本体としての DNA について理解する。 ・体細胞分裂に伴う DNA の複製について理解する。 ・染色体の構造について理解する。 ・核の中で、DNA が塩基の相補性に基づき複製されるしくみを理解する。 ・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・DNA と RNA の構造について理解する。 ・mRNA のコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを理解する。	
2	生物の体内環境の維持 体内環境 体内環境の調節 免疫	・体内環境の特徴 ・心臓と血液循環 ・体内環境を調節する器官 ・自律神経系による調節 ・内分泌系による調節 ・自律神経とホルモンによる協同作業 ・免疫 ・自然免疫 ・適応免疫 ・免疫とヒト	・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などはたらきを理解する。 ・酸素解離曲線から、酸素とヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解する。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみを理解する。 ・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを理解する。 ・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除したりするしくみを学ぶ。 ・ABO 式血液型の分類と、異型血液の輸血により凝集反応が引き起こされるしくみを理解する。 ・体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。	
3	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全	・植生と生態系 ・植生の遷移 ・地球上の植生分布 ・陸上のバイオーム ・生態系でのエネルギーの流れ ・生態系での物質の循環 ・生態系のバランスと保全 ・生物多様性の保全	・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを理解する。 ・気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。 ・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみ、生態系の保全について理解する。 ・東南アジア等に分布する熱帯多雨林における生物多様性を知り、気候条件との関係性を理解する。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・生物基礎	情報デザイン科 3年	2	改訂版 新編 生物基礎（数研出版）	リードLight ノート生物基礎(数研出版)
科目の概要と目標		1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー 遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質合成	・多様な生物の共通点 ・生物の共通性としての細胞 ・エネルギーと代謝 ・代謝に関わる酵素 ・生体内におけるエネルギー変換 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源 ・正確に伝わる遺伝情報 ・DNA の構造 ・ゲノムと遺伝情報 ・細胞分裂と DNA の複製 ・細胞周期と DNA の複製 ・遺伝情報の流れ ・転写 ・翻訳 ・遺伝子の発現と生命現象	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・エネルギーの通貨としての ATP について理解する。 ・酵素の性質を理解する。 ・ミトコンドリアが細胞呼吸の場となっていることを知る。 ・光合成においてデンプンが合成されるしくみを理解する。 ・遺伝子の本体としての DNA について理解する。 ・体細胞分裂に伴う DNA の複製について理解する。 ・染色体の構造について理解する。 ・核の中で、DNA が塩基の相補性に基づき複製されるしくみを理解する。 ・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・DNA と RNA の構造について理解する。 ・mRNA のコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを理解する。	
2	生物の体内環境の維持 体内環境 体内環境の調節 免疫	・体内環境の特徴 ・心臓と血液循環 ・体内環境を調節する器官 ・自律神経系による調節 ・内分泌系による調節 ・自律神経とホルモンによる協同作業 ・免疫 ・自然免疫 ・適応免疫 ・免疫とヒト	・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などはたらきを理解する。 ・酸素解離曲線から、酸素とヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解する。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみを理解する。 ・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを理解する。 ・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除したりするしくみを学ぶ。 ・ABO 式血液型の分類と、異型血液の輸血により凝集反応が引き起こされるしくみを理解する。 ・体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。	
3	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全	・植生と生態系 ・植生の遷移 ・地球上の植生分布 ・陸上のバイオーム ・生態系でのエネルギーの流れ ・生態系での物質の循環 ・生態系のバランスと保全 ・生物多様性の保全	・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを理解する。 ・気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。 ・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみ、生態系の保全について理解する。 ・東南アジア等に分布する熱帯多雨林における生物多様性を知り、気候条件との関係性を理解する。	

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・地学基礎		普通科・1年	2	高等学校 地学基礎（第一学習社）	・新課程版ネオパネルノート地学基礎（第一学習社）
科目の概要と目標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。			
月	単元	学習内容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	地球のすがた 地球の概観	地球の概観 地球の形と大きさ 地球の形の特徴と大きさ 地球の内部構造 地球内部の動き	自然界のしくみには、基本的な概念・原理・法則があることを理解できる。 基本的な実験を通し、観察法や実験の意味を考えることができる。	地学の成果が人間生活の向上に果たした役割を、具体例を踏まえて考察できる。	地学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。
5	プレートの運動	プレートの分布と運動 プレートの動き プレートの境界 プレートの発散境界 プレートの収束境界 プレートのすれ違い境界 断層 褶曲 造山帯 大陸地殻の形成 大陸地殻の成長 プレートテクトニクス	プレートの境界における相互作用によって統一的に説明することができる基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 プレートの運動によるひずみが断層となって顕われる状態を理解し、知識として身につけている。 実験において、質量や体積などの定量的な測定方法の技能が習得できているとともに、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。	物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 活断層から大まかな地質のひずみが判断できる。 物質の状態に関して観察、実験を行い、それらに関する技能を習得し、それらの測定結果から物質の状態について考察できる。	物質に関心をもち、物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとしている。 物質の状態変化の現象について、粒子の運動と関連付けて探究しようとする。
6 7	地球の活動 地震	地震と断層 震度とマグニチュード 本震と余震 地震の分布 地震波の伝わり方 震源の決定 日本付近の地震の分布 地震のタイプ プレート境界地震 内陸地殻内地震 海洋プレート内地震 異常震域 地震波の減衰	物質の構成粒子の違いによる震源からの距離・地震波の差異を代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。 物質は成分の違いによって性質に違いがあり、区別できることを理解している。 地震波に関する観察、実験の操作や記録などの技能が習得でき、その結果より結論を表現できる。 それぞれ物質の、結合による性質の違いを利用し、物質を見わけける操作方法を選択できる。	地震波の種類は、プレートの深さ、地殻の成分、地震の発生日点などの地域の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できる。 それぞれの物質について、成分によって区別することができる。 それぞれの物質の性質の性質をプレートの成分と関連付けて考えることができる。	地殻の構造は、プレートの重なり、海洋からの距離、マグマとまagmaなどの結合の仕方の違いに関わりがあることを意欲的に探究しようとする。 それぞれの結合とその結晶について、正確に区別し探究しようとする。 身近な物質について、結合によって区別し、性質や利用例を日常の事象と関連付けて探究しようとする。
8 9 10	火山活動	世界の火山の分布 日本の火山の分布 火山の形成とマグマ 火山の噴火 火山の地形 火成岩の形成 火成岩の種類 プレートの運動と地球の活動 世界の大地形	化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。	原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。また、物質量と溶液の濃度の関係を考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。 表や図のデータなどから物質の性質を分析できる能力を身につけている。	代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。
11 12	大気と海洋 地球のエネルギー収支	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および pH について理解する。 酸と塩基の性質と中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	大気構成と特徴を理解し、日常生活と関連付けて気象現象をとらえることができ、さらに十種雲形の基礎を理解している。 実験器具の取り扱いができると同時に、実験結果から低気圧と高気圧の性質から気象の簡単な予測をすることができる。	対流圏における水の状態変化を、実験などを通し、科学的に考察できる。また、オゾン層における紫外線の吸収についても考察できる。 考察して導き出した考えを的確に表現できる。	地球のエネルギー収支に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて意欲的に探究しようとする。 身近な物質の気象を測定して考察するなど、身近な現象と酸・塩基反応を関連づけて意欲的に探究しようとする。
1 2	大気と海水の運動 宇宙と地球 生命と太陽の誕生	エネルギー収支の緯度分布。 風が吹くしくみ。 大気の大循環 海洋の構造 海洋の大循環 エルニーニョ現象 ラニーニャ現象 宇宙の始まり 太陽の誕生 太陽系の誕生 太陽系の惑星 生命の惑星・地球	風が吹くしくみを理解し、知識を身につけている。 海洋の大循環の定義を理解し、日常生活と関連づけて熱の大循環をとらえることができる。 代表的なエルニーニョ現象やラニーニャ現象の観察、実験の報告書を作成する中で、熱量の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現することができる。 海洋の層構造とそれらによる海水温度の違いを理解し、海流や風成循環、海水の形成など身近に大循環モデルが利用されていることを知っている。	さまざまな観察、実験を通し、深層水の大循環の定義と風の吹くしくみの定義を理解し、共通性を見だし、風成循環反応として論理的に考察できる。 エルニーニョ現象とラニーニャ現象の違いとその説明を科学的に表現できる。 風と海流との関連性を見だし、論理的に考察し、科学的に判断できる。	風が吹く仕組みと海洋の大循環に興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究する。 身近な現象や気象現象を関連付けて意欲的に探究しようとする。
3	生物の変遷と地球環境	地層と化石 地層の形成 地層の重なり 堆積岩 化石と地質時代 地球と生物の変遷 先カンブリア時代 古生代 中生代 新生代	日常生活や社会において、様々な科学技術に支えられていることを理解している。 何度もの絶滅を経て、奇跡的に進化し生き残ることができた哺乳類及び人類の進化の過程における特異性、科学技術が生活を豊かにするための課題を克服してきたことを知っている。	さまざまな観察・実験を通して、いかに日常生活や社会において科学技術が密接な関係にあるのかを理解し、関連づけて論理的に考察できる。 地球外生物と目されている葉緑体とミトコンドリアの獲得によって、人類の祖先は他の生物よりも僅かな優位性を保って厳しい自然淘汰をくぐりぬけてきたことを理解する。 生物は大量絶滅など危機的状況の時に急激に進化する。進化の過程において他の生物との関わり方を考察することによって、人類が幸運にも生き残り、科学文明を発見し発展させていることを、自ら考察して表現できる。	身近にある河川や、海や山、空気中のいたる所に生き物は存在しているが、それらの大部分が真核生物であり、酸素呼吸を行っている。その期限がシアノバクテリアとミトコンドリアであることを理解し、日常生活で不可欠なものに対して興味をもち、それらが地学基礎のどの分野と関連が深いかを意欲的に探究する。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
理科・地学基礎	普通科(体育コース)・3年	2	改訂 高等学校地学基礎（第一学習社）	改訂　ネオパネルノート地学基礎（第一学習社）
科目の概要と目標	1　現代地球物理学の基礎となるプレートテクトニクス、地震、ビックバン理論、太陽系、地層と化石といった基礎的な内容を、最先端の地球物理学を織り交ぜながら学習する。 2　生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3　観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4　清明の起源を学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。			
学 期	単 元		学 習 内 容	到 達 度 目 標
1	地球のすがた 地球の概観 プレートの運動 地球の活動 地震 火山活動		・地球の形と大きさ ・地球の形の特徴と大きさ ・地球の内部構造 ・地球内部の動き ・プレートの分布と運動 ・プレートの境界 ・地殻の変動と地質構造 ・変成作用 ・大地形の形成 ・地震の発生と分布 ・地震波の伝わり方 ・日本で発生する地震 ・火山の分布 ・火山の形成とマグマ ・火山の噴火 ・火山の地形 ・火成岩の形成 ・火成岩の種類	・地球の特殊性と内部構造について理解する。 ・大陸移動説とプレートテクトニクスのしくみについて学習し、大陸の変遷を学習する。 ・大陸移動説と気候の変動について理解する。 ・様々な生物の発生と絶滅を理解する。 ・地球の内部構造と成分によって生命の起源に関わってくることを知る。 ・地殻の変動によって地球上の地形が変遷してきたしくみを理解する。 ・基本的な地震波の伝わり方について理解する。 ・火山の成分による分類について理解する。 ・火成岩の冷えかたと地形の構造について理解する。 ・地殻の成分によって噴火の規模が異なることを理解する。 ・火成岩の色と化学的特性を理解する。 ・火成岩のできる場所と化学的性質の違いについて理解する。
2	大気と海洋 地球のエネルギー収支 大気と海水の運動		・大気構成と特徴 ・対流圏における水の変化 ・太陽放射と地球放射 ・地球を出入りするエネルギー ・エネルギー収支の緯度分布 ・風 ・大気の大循環 ・海洋の構造 ・海洋の大循環	・地球だけが生命を生み出す元となった大気の線分について理解する。 ・水の惑星、地球が生命を生み出す原因となった数々の特殊性を理解する。 ・地球に吸収される熱と放出される熱を理解する。 ・地球上の気象現象が、大気の大循環によって引き起こされることを学習する。 ・命の源である海が、どのような経緯で成立し、変遷していったか変化のしくみを学ぶ。 ・海洋の表面または深海において、どのような生命に関わり生命を生み出していったかを学習する。
3	宇宙と地球 宇宙と太陽の誕生 生物の変遷と地球環境		・宇宙の探求 ・宇宙の始まり ・太陽の誕生 ・太陽系の構造 ・地層の形成 ・化石と地質時代 ・古生代 ・中生代 ・新生代	・宇宙がどのようにして生まれて現在に至るか、その成長のメカニズムを理解する。 ・銀河の一部の恒星である太陽がどのように太陽系を構成したかについて理解する。 ・それぞれの地質時代において様々な生物が繁栄を極めて絶滅していくしくみについて理解する。 ・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみ、生態系の保全について理解する。

教科・科目	対象学科 ・ 学年	単位数	教科書	使用教材
理科・ 物理基礎	普通科 ・ 2 学年	2	物理基礎 改訂版(啓林館)	ステップアップノート 物理基礎 改訂版(啓林館) 物理実験テキスト (富山県理化学会) (中央書籍株式会社)
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物体の運動と力、および、それらの関係を理論的に理解する。 ・ 「仕事」の定義から、「エネルギー」への繋がりを学び、エネルギーというものを物理的に理解する。 ・ 「波」という物理現象の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」について学び、実際の現象と結び付けながら理解を深める。特に、「音」や「光」に関する現象については、詳しく学ぶ。 ・ 電流と磁場に関する基本的な物理現象を学び、電流と磁場の関係を理解する。 			
学 期	単 元	学 習 内 容	到達度目標	
1	物体の運動	速度 加速度 落体の運動	物体の運動についての理論的な考え方を理解する。 等速直線運動，等加速度直線運動，自由落下運動， 放物運動について理解する。	
	力と運動	力 運動の法則 様々な力と運動	「力」というものを物理的にどのように理解し、扱 えばよいかを理解する。 あらゆる事象において、つりあいの式，運動方程式 を立てることができる。 剛体にはたらく力の扱い方を理解し、力のモーメン トについて理解する。	
	仕事とエネルギー	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	「仕事」の定義から、「エネルギー」という概念へ の繋がりを理解し、いろいろな事象においてエネル ギーを正しく扱うことができる。	
	熱とエネルギー	熱と温度 熱量 熱の利用	熱，電気などのいろいろなエネルギーについて、変 換と保存、エネルギーは等価であることなど総合的 に理解する。	
2	波の性質	波の伝わり方 波の性質	「波」という物理現象はどういうものかを学び、波 の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」に ついて正しく理解する。実際の現象と結び付けなが ら理解を深める。	
	音	音波の性質 音源の振動	「音」に関する現象を、物理的な波として理論的に 理解する。音の三要素について物理的に理解する。 音の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」 について理解する。音に関わる現象（うなり，弦の 振動，気柱共鳴，ドップラー効果など）について理 解する。	
	静電気と電流	静電気 電流	静電気は電子の移動によって生じるということを通 理解する。物体が帯電するしくみ（静電誘導，誘電分 極）を理解する。 電場と磁場の関連性を理解する。 電流がつくる磁場を理解する。 フレミング左手の法則，電磁誘導，レンツの法則， ファラデーの電磁誘導の法則を理解する。	
	交流と電磁波	電磁誘導と発電機 交流と電磁波	電磁誘導という物理現象の発見から、交流，電磁波 へと科学が発展してきた歴史を背景に、現象を系統 的に理解する。	
3				

教科・科目	対象学科 ・ 学年	単位数	教科書	使用教材
理科・ 物理基礎	工業科 ・ 3 学年	3	物理基礎 改訂版(啓林館)	ステップアップノート 物理基礎 改訂版(啓林館)
科目の概要 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物体の運動と力、および、それらの関係を理論的に理解する。 ・ 「仕事」の定義から、「エネルギー」への繋がりを学び、エネルギーというものを物理的に理解する。 ・ 「波」という物理現象の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」について学び、実際の現象と結び付けながら理解を深める。特に、「音」や「光」に関する現象については、詳しく学ぶ。 ・ 電流と磁場に関する基本的な物理現象を学び、電流と磁場の関係を理解する。 			
学 期	単 元	学 習 内 容	到達度目標	
1	物体の運動	速度 加速度 落体の運動	物体の運動についての理論的な考え方を理解する。 等速直線運動，等加速度直線運動，自由落下運動， 放物運動について理解する。	
	力と運動	力 運動の法則 様々な力と運動	「力」というものを物理的にどのように理解し、扱 えばよいかを理解する。 あらゆる事象において、つりあいの式，運動方程式 を立てることができる。 剛体にはたらく力の扱い方を理解し、力のモーメン トについて理解する。	
	仕事とエネルギー	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	「仕事」の定義から、「エネルギー」という概念へ の繋がりを理解し、いろいろな事象においてエネル ギーを正しく扱うことができる。	
2	熱とエネルギー	熱と温度 熱量 熱の利用	熱，電気などのいろいろなエネルギーについて、変 換と保存、エネルギーは等価であることなど総合的 に理解する。	
	波の性質	波の伝わり方 波の性質	「波」という物理現象はどういうものかを学び、波 の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」に ついて正しく理解する。 実際の現象と結び付けながら理解を深める。	
	音	音波の性質 音源の振動	「音」に関する現象を、物理的な波として理論的に 理解する。音の三要素について物理的に理解する。 音の基本的性質「反射」「屈折」「回折」「干渉」 について理解する。 音に関わる現象（うなり，弦の振動，気柱共鳴，ド ップラー効果など）について理解する。	
3	静電気と電流	静電気 電流	静電気は電子の移動によって生じるということを通 理解する。 物体が帯電するしくみ（静電誘導，誘電分極）を通 理解する。 電場と磁場の関連性を理解する。 電流がつくる磁場を理解する。 フレミング左手の法則，電磁誘導，レンツの法則， ファラデーの電磁誘導の法則を理解する。	
	交流と電磁波	電磁誘導と発電機 交流と電磁波	電磁誘導という物理現象の発見から、交流，電磁波 へと科学が発展してきた歴史を背景に、現象を系統 的に理解する。	

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・音楽Ⅰ		普通科・工業科・商業科 1 学年	2	MOUSAⅠ (教育芸術社)	Music Navigation (音楽史・楽典・ノート)
科目の概要と目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
4 5 6 7	正しい発声を身に付けよう	・歌唱 校歌、「翼をください」「Ave Maria」他	・曲にふさわしい発声、身体 の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・曲に合わせて正確なリズムでコップや机を打ったり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付け、器楽で表現することができる。 ・音符や休符の名称や長さ、日本語やドイツ語による音名、拍子などについて理解することができる。	・曲の雰囲気に合った音色、強弱を知覚・感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・曲に合う音色、リズム、強弱などを知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、リズム、速度、強弱などを知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・コップや手拍子を用いて、どのようなリズムを作るかについて表現意図をもっている。	・グループで意見を出し合ったり、振り返りをしたりしながら、主体的・協働的に器楽の活動に取り組むことができる。 ・曲想や表現上の効果、音楽の特徴に関心をもち、主体的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。
	リズムアンサンブルに挑戦しよう	・拍子の理解 ・コップ、手拍子を使ったアンサンブル演奏「Clap, Tap with CUPS!」 ・簡単なリズム作り			
	西洋音楽を聴こう	・鑑賞 組曲「動物の謝肉祭」、交響曲第9 番「合唱付き」 ・ピアノによるさまざまな表現方法を聴き取る「ピアノソナタ第23 番」他			
	楽譜の仕組み（1）	・音符や休符の名称や長さの理解 ・日本語やドイツ語による音名の理解			
9 10 11 12	ヨーロッパの歌曲を歌おう	・イタリア歌曲の歌唱「Caro mio ben」「我が太陽」 ・ドイツ歌曲の歌唱「野ばら」（シューベルト、ヴェルナー）	・曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・箏の様々な奏法を用いて創作した変奏曲を、箏で演奏することができる。 ・2つの音の音程や三和音、奏法上の記号などについて理解することができる。	・曲の雰囲気に合った音色、速度、強弱を知覚・感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・箏の音色、速度、形式などを知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、リズム、速度、強弱などを知覚・感受しながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 ・箏の様々な奏法を用いて、どのような変奏曲を作るかについて表現意図をもっている。	・様々な奏法を用いて弾いた箏の音色や響きに関心をもち、主体的・協働的に創作の活動に取り組むことができる。 ・舞台芸術の特徴や文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。
	和楽器を演奏しよう	・箏の演奏「さくら変奏曲」「六段の調べ」 ・創作「さくらさくら変奏曲を作ろう」			
	舞台芸術に親しもう	・オペラの鑑賞「カルメン」 ・ミュージカルの鑑賞「キャッツ」			
	楽譜の仕組み（2）	・音程の理解 ・和音（三和音）の理解 ・奏法上の記号の理解			
1 2 3	日本歌曲を歌おう	・日本歌曲の歌唱「この道」「むこうむこう」	・曲にふさわしい言葉の発音、強弱の変化などの技能を身に付け、歌唱で表現することができる。 ・ギターの基本的な奏法を身に付け、簡単な旋律やコードをギターで演奏することができる。 ・これまで学習した楽典の知識を生かして、問題を解くことができる。	・曲の雰囲気に合った音色、速度、旋律、強弱を知覚・感受し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 ・ギターの音色、旋律、テクスチャなどを知覚・感受しながら、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 ・音色、速度、強弱などを知覚・感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・ギターの音色や奏法との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組むことができる。 ・世界の諸民族の音楽の特徴や文化的・歴史的背景、音楽表現の共通性や固有性に関心をもち、主体的に鑑賞の学習活動に取り組むことができる。
	ギターを演奏しよう	・ギターの演奏「きらきら星」、「歓喜の歌」、「カントリーロード」他			
	ゴスペル音楽を聴こう 世界の諸民族の音楽を知ろう	・ゴスペル音楽の鑑賞「Oh Happy Day」 ・世界の諸民族の音楽の鑑賞「ニッケルハルパ」「ステイールパン」他			

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・美術Ⅰ		普通科・工業科・商業科・1学年	2	高校生の美術1 ＜日本文教出版株式会社＞	
科目の概要と目標		美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成することを目指す。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション 【美術とは何か】 ○鑑賞	○今までを振り返り、高校の美術Ⅰのイメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
5 6 7	絵画（油彩画） 【静物】 ○表現 ○鑑賞	○自分でモチーフを選び、構図を検討し、自分らしさを表現する。 ○油絵の具の使い方を理解し、モチーフの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練り表現する。 ○友達のを作品を鑑賞する。	・形や色彩、明暗、質感など造形的な特徴を捉え、意図に応じて絵の具などの特性を生かし、表現方法を創意工夫している。	・モチーフの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形や色彩、質感などを考え、創造的な構想を練っている。	・モチーフの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したいものの特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
9 10 11 12	デザイン 【オリジナル時計】 ○表現 ○鑑賞	○時計の機能や、使用される場所や目的との関係、文字の形や色、構成などの効果、伝えたい情報やイメージを捉え表現する。 ○友達のを作品を鑑賞する。	・形体や色彩などの性質及びそれらが人の感情にもたらす効果や、配置や画材の工夫など造形的な特徴を基に、全体のイメージを捉えることを理解している。 ・意図に応じて描画材などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表現している。	・感じ取ったことや考えたことを基に、時計のデザインの美しさやおもしろさ、伝えたい内容を表すための工夫を考えて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、伝えるための創造的な表現の工夫を捉えるなどして見方や感じ方を深めている。	・画材や表現方法などを工夫して表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・時計のデザインによる表現の特性や作者の意図と工夫との関連を感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
1 2 3	絵画（鉛筆画） 【人物】 ○表現 ○鑑賞	○構図や表情、全体のイメージを捉え、明暗の変化を、鉛筆や練り消しゴムなどの特性を生かし表現する。 ○友達のを作品を鑑賞する。	・目的や意図に応じて鉛筆の特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表現している。	・造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	・人物画を描く表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・作者の表したい人物の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深めようとしている。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
芸術・書道Ⅰ		普通科、工業科、商業科 1 学年	2	書Ⅰ（光村図書）	
科目の概要 と目標		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を養う。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に取り 組む態度
4	書へのい ざない	・書道で学習すること ・書写から書道へ	書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。	小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。	芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
4 5	漢字の書	・漢字の変遷とさまざまな書体 ・楷書 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」 「鄭義下碑」	楷書の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。	楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
6		・行書 「蘭亭序」「風信帖」 ・草書 「真草千字文」 ・隸書 「曹全碑」 ・篆書 「泰山刻石」	行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。	行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
7		・篆刻	印と篆刻について知り、用具・用材の用途を理解して、姓名印の刻し方を身につける。	篆刻の価値とその根拠について考え、篆刻のよさや美しさを味わって捉える。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
9 10		・古典を生かした創作作品	漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。	漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
11 12	仮名の書	・仮名の成立と種類 ・古筆に見る仮名の表現方法 「蓬萊切」 「高野切第三種」	日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や携帯について理解する。 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、連綿と単体、線質、字形や構成を生かした表現をするための技能を身につける。	仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
1 2	漢字仮名 交じりの 書	・創作作品	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成などの目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につける。	目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫する。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。
3	生活の書	・書を暮らしに生かす	書活動を通し、暮らしに生かせる実用書を理解する。	生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。	幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 3年女子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2020 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 体育コース 3年女子	3	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2020 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 3年男子	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2020 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 体育コース 3年男子	3	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2020 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる 技能の習得を通して互いに相手を尊重する礼儀作法を身に付けることができる。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	生涯スポーツの見方・ 考え方、 ライフスタイルに応じ たスポーツ 体力トレーニングの方 法と内容 体力を高める運動 長距離走 ソフトボール バスケットボール サッカー バレーボール テニス	スポーツの役割の変化や重要性について理解 させる。 スポーツを生活の中に上手く位置づける方法 について理解させる。 体力測定の意義及び体力の向上を図る運動を 理解させる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事がで きる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事がで きる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。	
2	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 スポーツと環境 体力を高める運動 バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のために行われている条件整備に ついて理解し、スポーツと環境の調和について どのようにしていけば良いかを考えさせる。 個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができ る。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わ う事ができる。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	日本のスポーツ振興 体ほぐしの運動 バスケットボール バドミントン 卓球	スポーツ振興のための施策と諸条件について 理解したことを言うことができる。 基本動作や対人的技能を身に付け、練習や試 合ができる。 生涯スポーツにつながるような、企画・実践 ・ふり返りが自分でできる。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
保健体育 ・ 体育	普通科 工業科 商業科 2年	2	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	Active Sports 2021 (大修館書店)
科目の概要 と目標	運動についての科学的な理解を深め、運動の合理的な実践ができる。 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる			
学 期	単 元	学 習 内 容	到達度目標	
1	体育理論 体づくり運動 陸上競技 球技	スポーツの技術と戦術 技能の上達過程と練習 体力を高める運動 短距離走・長距離走 ソフトボール サッカー	運動技能を高めるための練習法について理解させる。 健康の増進や体力の向上に役立たせる事ができる。 記録向上の喜びや競走の楽しさを味わう事ができる。 集団的技能、個人的技能を身に付ける事ができる。 学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができる。	
2	体育理論 体づくり運動 球技 武道	効果的な動きのメカニズム 技能と体力 体ほぐし運動 バレーボール バスケットボール テニス 剣道	記録・パフォーマンスを高めるために必要な事柄を学習する。 運動の楽しさや心地よさを味わうことができる。 個人的技能を身に付ける事ができる。また学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができる。 勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう事ができる。 伝統を重んじた行動や考え方と対人競技の楽しさを味わう。	
3	体育理論 体づくり運動 球技	体力トレーニング 運動時の安全確保 体力を高める運動 バスケットボール フットサル	体力向上のメカニズムとトレーニング方法について学ぶ。 安全に楽しく運動やスポーツ活動を行うために必要な知識やスキルを身につける。 運動を継続する意義、運動の原則などが理解できる。 球技の特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能を身につける。	

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書		使 用 教 材	
保健体育 ・ 体育		普通科 工業科 商業科 1 年	3	新高等保健体育 (大修館書店)		Active Sports 2022 (大修館書店)	
科目の概要 と目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように知るため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単 元	学 習 内 容	評価方法				
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4・ 5・ 6・7	体 育 理 論	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	運動を持続する意義、身体構造、運動の原理などを理解しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に取り組むとともに、互いに田請け合おうとし、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
	体 つ く り運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画					
	陸 上 競 技	短距離走・長距離走					
	球技	ソフトボール					
8・ 9・ 10・ 11	体 育 理 論	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前などから攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについて話し合いに貢献しようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
	体 つ く り運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画					
	球技	サッカー バレーボール					
	武道	剣道					
1・ 2・3	体 育 理 論	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に授業に組み、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
	体 つ く り運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画					
	球技	バスケットボール					

教科・科目		対象学 科 ・学年	単 位 数	教 科 書		使 用 教 材	
保健体育 ・ 体育		普通科 体育コース 1 年	2	新高等保健体育 (大修館書店)		Active Sports 2 0 2 2 (大修館書店)	
科目の概要 と目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるように知るため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
月	単 元	学 習 内 容	評価方法				
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り 組む態度		
4・ 5・ 6・7	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 陸 上 競 技 球技	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 短距離走・長距離走 ソフトボール	運動を持続する意義、身体構造、運動の原理などを理解しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に取り組みとともに、互いに田請け合おうとし、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
8・ 9・ 10・ 11	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球技 武道	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 サッカー バレーボール 剣道	安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前などから攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについて話し合いに貢献しようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		
1・ 2・3	体 育 理 論 体 つ く り 運 動 球技	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 バスケットボール	役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるかなどを授業や学習カードなどで評価する。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し、文章で表現しているかなどを授業や学習カードなどで評価する。	自主的に授業に取り組み、一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしているかなどを授業や出席状況などで評価する。		

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材		
保健体育・保健		普通科 工業科 商業科 ・ 1年	1	新高等保健体育 p (大修館書店)	新高等保健体育ノート (大修館書店)		
科目の概要と目標		現代社会における健康やその対策の考え方が変化していることを理解する。 生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用、エイズなどの問題に対応する必要があることを理解する。また、適切な意思決定と行動選択が重要となることを理解する。 ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が必要であることを理解する。 交通事故を防ぐためには適切な行動や交通環境の整備が重要であることを理解する。 障害や疾病に際して応急手当を適切に行うことが重要であることを理解する。 各分野で対策や解決方法を考え、伝え合うことができるようにする。 健康について、自主的に学習に取り組むことができるようにする。					
月	単元	学 習 内 容	評価方法				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4 5	現代社会と健康	・日本における健康課題の変遷 ・健康の考え方と成り立ち ・ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ・健康に関する意思決定・行動選択 ・現代における感染症の問題 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	適切な意思決定と行動選択が重要となることを理解することができる。 感染症の予防には、適切な対策が必要であることを理解する。 性感染症やエイズから身を守るために個人の適切な意思決定や行動選択が重要であることを理解する。	現代社会における健康やその対策の考え方が変化していることを理解することができ、現在の日本の健康課題を把握し、その解決方法を考え、伝え合うことができる。	日本の健康課題について知識を深め、自主的に学習に取り組んでいる。		
	現代社会と健康	・現代における感染症の問題 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防					
8 ・ 9 10	現代社会と健康	・生活習慣病の予防と回復 ・身体活動・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康	生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があることを理解することができる。 ストレスに適切に対処することや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。	生活習慣病や喫煙、飲酒、薬物乱用などの問題に対応する必要があることを理解し、自分自身や家庭、学校でどのような対策をすればよいか考えられる。 自分の生活行動の課題を分析し、行動実践に向けて必要な取り組みを整理し、説明することができる。	自らの健康に向き合い、自主的に学習に取り組んでいる。		
	現代社会と健康	・がん予防と回復 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用					
1	現代社会と健康	・精神疾患の特徴 ・精神疾患への対応	精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることや自己実現を図る努力が必要であることを理解することができる。	自分自身の心身についてどのような対策をすればよいか考え実行することができる。	自らの心の状態について把握し、対処できることを考え学習に取り組んでいる。		
2 3	安全な社会生活	・事故の現状と発生要因 ・交通事故予防の取り組み ・安全な社会の形成 ・応急手当の意義と救急医療体制 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	応急処置には正しい手順や方法があることを理解し、障害や疾病に際して心肺蘇生法などの手当てを行うことが重要であり、適切な救急医療体制の利用に応用できる。	交通事故を防止するための必要な事柄を理解し、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。	安全な社会生活について関心をもち、自主的に学習に取り組んでいる。		

教科・科目	対象学科 ・ 学年	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育 ・ 保健	普通科 工業科 商業科 ・ 2 年	1	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)	現代高等保健体育ノート改訂版 (大修館書店)
科目の概要 と目標	思春期から結婚、妊娠、出産までの健康について理解する。 性意識の男女差、適切な性行動の選択について理解する。 中高年期の健康及び各段階で必要となる保健・医療サービスの活用方法を理解する。 健康に関連する環境問題について理解する。 健康に関連する食品問題について理解する。 働くことと健康との関係について理解する。			
学 期	単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1	生涯を通じる健康	思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶	思春期における体の発達、行動面、心理面の特徴を理解する。 性意識の男女差、性的欲求のあらわれかたの違いを理解する。 受精・妊娠・出産の過程や本人及び周囲の人々が留意する点を理解する。	
2	生涯を通じる健康 社会生活と健康	加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み 保健制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き	加齢にともなう心身の変化について、形態面・機能面などを理解する。 医療保険の仕組み、医療機関の選び方について理解する。 医薬品について理解する。 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染はどのようにおこり、健康にどう影響するか理解する。 ごみ処理の過程、上下水道の整備、その問題点と対策について理解する。	
3	社会生活と健康	食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	食品の衛生管理、食品の安全性を確保するための対策について理解する。 働くことと健康が相互に影響することを理解する。 職場、日常生活での健康増進対策について理解する。	

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
社会と情報	2 学年 普通科	2	社会と情報 Next（数研出版）	社会と情報 Next サポートノート （数研出版）
科目の概要 と目標	・ 情報の特徴や情報社会がもたらした社会の変化について理解し、情報の取捨選択や発信に伴う責任や個人情報の保護、セキュリティの維持、著作権の保護などを意識することができる。 ・ メディアリテラシーについて実践的に理解し、表現方法を工夫することができる。 ・ コンピュータ、ネットワークの仕組みと働きについて理解することができる。 ・ コンピュータを用いて、課題を解決する課題を通して、基本的な情報処理技術を身につけることができる。			
学期	単 元		学 習 内 容	到 達 度 目 標
1	序編 情報とメディア 第 1 章 情報とメディアの特徴 第 2 章 コンピュータの活用 第 1 編 情報社会と情報モラル 第 1 章 人・社会とのかかわり 第 2 章 技術とのかかわり 第 3 章 法とのかかわり		情報の特徴 情報の表現形式 デジタル情報の特徴 ハードウェア ソフトウェア インターネットでの情報検索 情報社会が人に及ぼす影響 インターネットの活用 電子メールの活用 ネットトラブル ネット詐欺 情報セキュリティ 情報セキュリティの確保 情報の暗号化 安全にコンピュータを利用する 知的財産権 著作権 個人情報	・ 情報とは何か、情報の信頼性とは何かを理解する。 ・ 情報によって適した表現方法（メディア）が異なり、メディア変換が可能なことを理解する。 ・ コンピュータの基本的なしくみとはたらきを理解する。 ・ サーチエンジンの意味と使い方を理解し、インターネットの情報検索の実際を学ぶ。 ・ インターネットの特性とおもなコミュニケーションツール、電子メールの特徴と注意点を理解する。 ・ ネットトラブルなどを踏まえ、情報セキュリティの重要性を認識し、情報セキュリティポリシーやソーシャルエンジニアリングについて学ぶ。 ・ 情報セキュリティを脅かす事例とコンピュータウイルスとその対策の具体例を学ぶ。 ・ 情報セキュリティの確保の方法、暗号やデジタル署名について学ぶ。 ・ 著作権と産業財産権の保護の必要性、著作権法がどのようなものか具体的に学ぶ。 ・ 個人情報保護の重要性を理解させ、肖像権・プライバシー権についても学ぶ。
2	第 2 編 デジタル情報と情報の活用 第1章 情報のデジタル表現 第2章 第 2 章 情報の表現と伝達 第 3 編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達 第2章 第 2 章 インターネットのしくみ		デジタル情報の表し方 デジタル表現 データの圧縮 情報の発信とその注意点 表現の工夫 プレゼンテーションの流れ、注意点 プレゼンテーションソフトウェアの利用 通信とその進展 マスコミュニケーション コンピュータによる通信 通信プロトコル パケット通信 通信の信頼性 IP アドレスとドメイン名 WWW と電子メール	・ ビットの概念、コードとコード化を理解させ、それを表現するための2進数について学び、さらに2進数を用いた数のデジタル表現、文字のデジタル表現を学ぶ。 ・ デジタル情報ならではのデータ圧縮の原理と具体例について学ぶ。 ・ プレゼンテーションの流れと注意点を理解させ、プレゼンテーションソフトウェアの利用方法を身につけさせ、情報発信の実践力を養う。 ・ 通信技術の進展について、古代からの技術的な進歩を概観し、コンピュータによる通信の特徴を学ぶ。また、コンピュータネットワークの具体例を学ぶ。 ・ コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルについて理解し、インターネットでの通信の原理を学ぶ。
3	第 4 編 望ましい情報社会の構築 第 1 章 情報社会における問題解決 第 2 章 情報システム		問題解決 表計算ソフトウェアの利用 社会における情報システム 情報システムと人間	・ 問題解決のプロセス（PDCA サイクル）を具体例をもとに理解する。 ・ 表計算ソフトウェアの利用法を理解し、問題解決の手段として活用できるようにする。 ・ 社会における情報システムの種類や特徴を理解する。

教科・科目	対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材	
家庭 家庭基礎	普通科・1年	2	家庭基礎(東京書籍)自立・共生・創造	2022最新生活ハンドブック(第一学習社)	
科目の概要と目標	家族や生活の営みを人の人一生とかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費者生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とする。				
学期	単元	学習内容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第6章 食生活をつくる	1食生活の課題について考える	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		2食事と栄養・食品	・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。	・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		3食生活の選択と安全	・健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・食品衛生について理解している。	・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		4生涯の健康を見通した食事計画	・ライフステージに応じた栄養の特徴について理解している。 ・自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。		
		5調理の基礎	・おいしさの構成要素について理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。		
		6食生活の文化と知恵		・食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		7これからの食生活		・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	第8章 住生活をつくる	1住生活の変遷と住居の機能	・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。	・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		2安全で快適な住生活の計画	・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。		
		3住生活の文化と知恵		・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		4これからの住生活		・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	第2章 人生をつくる	1人生をつくる	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		2家族・家庭を見つめる	・家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。	・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		3これからの家庭生活と社会	・家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ・家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	・家庭や地域によりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	ホームプロジェクト計画		・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
ホームプロジェクト発表					
2	第7章 衣生活をつくる	被服実習 手縫い、ボタン付けの練習 トートバックの作成	簡単な手縫いボタン付け、ミシンの基礎縫いができる。 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		1被服の役割を考える		・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		2被服を入手する		・被服材料について理解している。 ・被服構成について理解している。 ・被服衛生について理解している。	
		3被服を管理する		・被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	
		4衣生活の文化と知恵		・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		5これからの衣生活		・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	第9章 経済生活を営む	1情報の収集・比較と意思決定	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 ・生活情報を適切に収集・整理できる。	・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		2購入・支払いのルールと方法	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。		
		3消費者の権利と責任	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題について理解している。	・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		4生涯の経済生活を見通す	・家計の構造について理解している。 ・家計管理について理解している。	・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
		5これからの経済生活	・生活における経済と社会との関わりについて理解している。	・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	第1章 生涯を見通す	1人生を展望する	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		2目標を持って生きる	・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていることの重要性について理解を深めている。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	第10章 持続可能な生活を営む	1持続可能な社会を目指して	・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	第11章 これからの生活を創造する	1生活をデザインする	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていることの重要性について理解を深めている。	・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
	3	第3章 子どもと共に育つ	1命を育む	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。	
2子どもの育つ力を知る			・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。		
3子どもと関わる			・親の役割と保育について理解している。	・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
4子どもとの触れ合いから学ぶ			・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。		
5これからの保育環境			・子供を取り巻く社会環境について理解している。 ・子育て支援について理解している。	・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
第4章 超高齢社会を共に生きる		1超高齢・大衆長寿社会の到来	・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		2高齢者の心身の特徴	・高齢期の心身の特徴について理解している。		
		3これからの超高齢社会	・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 ・生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
第5章 共に生き、共に支える		1私たちの生活と福祉	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
		2社会保障の考え方	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。		
		3共に生きる (学校家庭クラブ活動)		・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	

備考 1クラス2編成で行い、1学期と2学期で分野を交代する。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
家庭 家庭基礎	工業科 商業科 2年	2	家庭基礎（第一学習社） ともに生きる・持続可能な未来をつくる	最新 生活ハンドブック（第一学習社）
科目の概要 と目標	家族や生活の営みを人の人一生とかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費者生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とする。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	「家庭基礎」の学習について		・学習の意義や内容・方法・評価について理解する。	
	(1) 食べる 食生活の自立と健康・安全	・栄養と食事 ・食品と調理(調理実験実習を授業全体の1/2時間実施)	・食することの役割を認識し、青年期と各ライフステージの栄養的な特徴について理解する。	
	(2) これからの生き方と家族	・これからの自分の人生 ・青年期の自立	・食品の栄養的特質と調理上の性質について理解し、目的を明確にした調理実習を通して調理技術を習得する	
	(3) 共生社会と福祉	・人生の課題と意思決定 ・家族・家庭と社会的支援 ・共生とコミュニティ	・生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解する。 ・生涯を見通した中で、生活課題に対応した意志決定をして、青年期の具体的な生き方を考える。	
	ホームプロジェクト計画		・夏休みを利用して、各自家庭の中での問題点や課題をみつけ、テーマを決める。	
2	ホームプロジェクト発表		・夏休み中に実践したことを発表する。	
	(4) 装う 衣生活の自立と管理・計画	・被服実習 (トートバック製作) ・人の一生と被服 ・被服材料と管理	・簡単な手縫いやボタン付け、ミシンの基礎縫いができる。 ・社会的習慣への適応などの社会的機能を理解し、被服材料の性能や被服の構成とのかかわりが、深いことを理解できる。 ・被服の入手、洗濯、保管など、衣生活を自ら管理する知識と技術を習得する。	
	(5) 住まう 住生活の自立と健康・安全	・ライフステージと住まい ・快適で安全な住まい ・住まいの環境	・生涯発達の視点で、家族の生活に応じた適切な住居の計画や選択ができる。 ・安全で健康かつ快適な住居や耐久性の高い住居を選択するために、必要な住居の機能について理解する。 ・地域コミュニティと共生できる住居の在り方などについて考える。	
	(6) 経済生活を営む	・生活に必要な費用と管理 ・将来を見通した経済計画	・生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済のかかわりについて理解する。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考える。	
3	(7) 次世代をはぐくむ	・子どもとかかわる ・子どもの育つ環境	・子どもの心身の発達と生活、親の役割と保育について理解できる。 ・子どもの育つ環境について理解し、現状の課題について考える。	
	(8) 充実した生涯へ	・高齢期の生活と課題 ・高齢者とかかわる (学校家庭クラブ活動) ・高齢社会を生きる	・高齢期の身体的および心理的特徴について理解し、現状の課題について考える。 ・身近な高齢者から生きがい、社会参加などを、聞き取ったりするなどの活動を通して具体的に考える。 ・超高齢社を迎えている現状と課題について理解する。	
	(9) 経済生活を営む	・社会の変化と消費者問題 ・消費者の権利と責任	・消費者問題発生の社会的背景について考え、消費者保護に関する施策について理解する。	
	(10) ライフスタイルと環境	・消費生活と環境とのかかわり	・家庭の機能が変化していることを理解し、これからの家庭生活や家族のあり方について考える。	
	(11) 生活をデザインしよう	・これからの自分の一生を考える。	・生活時間や進路選択など、高校生期の課題について検討し、将来への目標を考える。	

備考 1クラス2班編制で授業を行い、1学期と2学期で分野を交替する。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
外国語 英語コミュニケーション I		工業科・商業科 1 年	3	Landmark Fit English Communication I	Landmark Fit English Communication I サブノート 自作プリント
科目の概要と目標		文型の基本や、基礎的な文法事項を理解し、言語活動で利用できる。 英文を書いたり、話したりすることを通じて、断片的に自分の考えを表現することができる。 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用し、推測しながら読むことができる。 ある程度の量のある英文を用い、英語を理解しながら、自分の考えをある程度伝えられるようになる。			
学期	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	Preparatory Lesson 自己紹介をしよう！	〈自己紹介〉 自己紹介をペアやグループで行う。	アイウエ	アイウ	場面：(ア) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	Lesson1 Enjoy Your Journey!	新生活での新たな目標の 見つけ方	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	Lesson2 Curry Travels around the World	はるかなるカレーの旅	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	Lesson3 School Uniforms	世界の制服事情	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
2	SDGs 01	世界の真実 QUIZ	アイウエ	アイウ	アエオ
	Lesson4 Eco-Tour on Yakushima	屋久島エコツアーを体験	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	Lesson 5 Bailey the Facility Dog	病院で働くファシリティ ドッグ、ベイリーについて	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	Lesson6 Communication without Words	世界の国々の言葉を用い ないコミュニケーション	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
3	Supplementary Lesson	パラグラフを書いてみよう！	アイウエ	アイウ	場面：(ア) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	SDGs 02	SDGs Goals to Achieve	アイウエ	アイウ	場面：(ア) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)
	Lesson7 Dear World: Bana's War	バナが世界に向けて発信 したメッセージとは	アイウエ	アイウ	アウ
	Lesson8 The Best Education to Everyone, Everywhere	社会起業家の思いと挑戦	アイウエ	アイウ	場面：(ア)(イ)(ウ) 働き：(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)

注：学習指導要領との対照

[知識及び技能]

(1)英語の特徴やきまりに関する事項

- ア 音声
- イ 句読法
- ウ 語、連語及び慣用表現
- エ 文構造及び文法事項

[思考力・判断力・表現力等]

(2)情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり、自分自身の考えをまとめたりすること。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

(3)言語活動及び言語の働きに関する事項

①言語活動に関する事項

ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語活動のうち、中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

- イ 聞くこと
- ウ 読むこと
- エ 話すこと[やり取り]
- オ 話すこと[発表]
- カ 書くこと

②言語の働きに関する事項

ア 言語の使用場面

- (ア) 生徒の暮らしに関わる場面
- (イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面
- (ウ) 特有の表現がよく使われる場面

イ 言語の働き

- (ア) コミュニケーションを円滑にする
- (イ) 気持ちを伝える
- (ウ) 事実・情報を伝える
- (エ) 考えや意図を伝える
- (オ) 相手の行動を促す

教科・科目		対象学 科 ・学年	単位 数	教科書	使用教材
英語 英語コミュニケーションⅠ		普通科 1年	3	New Rays English CommunicationⅠ	Listening WORKBOOK, Standard WORKBOOK 自作プリント
科目の概要 と目標		英文を書いたり、話したりすることを通じて、断片的に自分の考えを表現することができる。 理解が難しい箇所を、文脈や背景知識を活用し、推測しながら読むことができる。 ある程度の量のある英文を用い、英語を理解しながら、自分の考えをある程度伝えられるようになる。			
学期	単元	学 習 内 容	評価方法		
			知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	The Future Is Yours	【これから生きる力】 ・ロバート・キャンベル氏の 話を通して、これからの生き 方について考える。 ・これまでの人生に影響を与 えた出来事について発表さ せる。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	The Power of Design	【デザインの力】 身の回りのものをデザイ ンという視点から捉え直し、 デザインが私たちの生活に どのような影響を与えてい るかを考える。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	Plastic Is Everywhere	【問題解決の仕方】 プラスチック汚染の現状 を知り、その解決に向けてど のような取り組みが可能で あるかを考える。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	OriHime – A Vehicle of Your Heart	【癒しの力】 吉藤健太郎氏が開発した オリヒメというロボットが、 孤独に苦しむ人々をどのよ うに支えているのかを理解 する。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
2	Satoko and Nada	【対話の力】 漫画「サトコとナダ」の作 者であるユベチカ氏とのイ ンタビューを通して、異文化 コミュニケーションにおけ る対話の重要性について考 える。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	The Voice of Children	【表現の力】 かつてインドのスラム街 に住んでいた若者たちが発 行する「バラクナマ」とい う新聞について知り、私たち の生活における「表現」の意 味を考える。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	Human Habitation on Mars	【探索の力】 人類による火星探査の歴 史を紐解き、さまざまな課題 をどのように乗り越えよう としているのかを理解する。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	A Loving Story	【愛の力】 「ラビング事件」について の文章を読み、人種問題につ いて考える。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
3	Edo, the Resilient City	【歴史の力】 江戸が幾多の災害を乗り越 え、どのように防災都市へ と変化していったのかにつ いて理解を深める。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。
	A Quality Education for All	【教育の力】 永遠瑠マリールイズ氏が 母国ルワンダで取り組んで いる教育プロジェクトにつ いて知り、教育のめづりにつ いて考える。	・扱う文法・語彙・慣用表現の用 法や意味を理解し、内容を聞き取 ることができる。 ・本文の内容を読み取り、口頭で の発表ややり取り、書く活動にお いて用いることができる。	・自分の意見や考えを整理 しながら相手に伝えるこ とができる。 ・相手の意見や考えを聴き とったり書きとったりす ることができる。	・新出単語調べなど予習 に確実に取り組む。 ・副教材のワークに復習 として取り組む。 ・週末課題に粘り強く取 り組む。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
工業 工業技術基礎		工 業 科 1年	2	工業技術基礎 (実教出版)	工業技術基礎 (富山北部高校 工業科テキスト)
科目の概要と目標		・実習で使う実習器具の名称や取り扱い方を学び、正しい操作法を身につける。 ・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組む姿勢を養う。 ・実習でよく使う試薬の性質を知り、安全に配慮しながら、正しく取り扱い実験できる。 ・顕微鏡を正しい操作法を身につけ、観察することができる。 ・定性分析の手順を学び、実験結果を正しく処理し、未知試料の成分を知ることができる。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5	実習を行うにあたっての心構え レポートの書き方 ガラス器具の洗浄	・実験を行うに当たり諸注意、安全指導 ・レポートの書き方 ・実験器具の名称 ・ガラス器具の洗い方	・身なりを整え、安全に実習に取り組むことができる。 ・ガラス器具の名称や正しい操作法を身につけている。	・ガラス器具の特徴や洗浄方法についてレポートにまとめることができる。	・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
	ガスバーナーの使い方 攪拌棒の製作	・ガスバーナーの構造と使用方法 ・ガラス棒の切断と加工	・火気の使用に際し、怪我や火災に注意することができる。 ・ガラス棒の切断と加工ができる。	・ガスバーナーの構造についてレポートにまとめることができる。	
6 ・ 7	スポイドの製作 ろ過	・ガラス管の切断と加工 ・ろ紙の折り方を紹介し、練習する。 ・四つ折りを使つたろ過を比較する。	・火気の使用に際し、怪我や火災に注意することができる。 ・ガラス管の切断と加工ができる。 ・ろ紙の折り方、ろ過の仕方を身に付けている。	・スポイドの作成について、レポートにまとめることができる。 ・ろ過の原理・方法について、レポートにまとめることができる。	・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
	天秤の使い方 液量計の使い方	・自動上皿天秤の使い方 ・液量計の種類と目盛りの読み方	・天秤のしくみを理解し、正しく質量を測定できる。 ・メニスカスを正しく読むことができる。	・天秤・液量計の使い方について、レポートにまとめることができる。	
8 ・ 9 ・ 10	よく使用される酸・アルカリ	・よく使用される酸・アルカリの性質を調べる。	・酸・アルカリを取り扱う際の注意点を身につけている。	・酸・アルカリの性質について、レポートにまとめることができる。	・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。
	塩の加水分解 中和滴定曲線	・塩から酸、塩基を遊離させる。 ・pHと指示薬の色の変化を観察する。 ・中和滴定曲線を作成させる。	・酸・アルカリの性質について理解できる。 ・塩の加水分解について理解できる。 ・中和について理解できる。 ・中和点を見極めることができる。 ・中和滴定曲線を書くことができる。	・塩の加水分解について、レポートにまとめることができる。 ・中和について、レポートにまとめることができる。	・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
11 ・ 12	顕微鏡 マイクロメーターの計算	・顕微鏡の扱い方 ・マイクロメーターの使い方 ・タマネギの表皮細胞の大きさを測定し、計算する。	・顕微鏡の使い方について理解できる。 ・マイクロメーターの使い方を理解できる。 ・マイクロメーターの使い方を習得し、計算ができる。	・顕微鏡の使い方について、レポートにまとめることができる。 ・マイクロメーターの使い方について、レポートにまとめることができる。	・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。
	微生物実験	・一般細菌数試験 ・空中落下細菌数試験	・微生物実験の特徴を理解できる。 ・滅菌法、培地作成、サンプリング方法を身に付けている。	・タマネギの表皮細胞の大きさを測定し、レポートにまとめることができる。 ・微生物実験について、レポートにまとめることができる。	・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。
1 ・ 2 ・ 3	試薬の調製 第一属イオンの分析	2学年になって使用する塩酸、酢酸、硫酸、酢酸、水酸化ナトリウム水溶液を調製する。 ・ Ag^+ 、 Pb^{2+} が含まれる混合試料溶液を分析する。 ・未知試料が何であるか、分析する。	・決められた濃度、量の酸、アルカリ溶液を計算し、正しく調製することができる。 ・フローチャートを理解し、順序追って実習することができる。 ・第一属イオンの性質について理解できる。	・試薬の調製について、レポートにまとめることができる。 ・第一属イオンの分析について、レポートにまとめることができる。 ・未知試料が何であるか、説明することができる。	・きまりや注意事項を守り、安全に気を配り、積極的に実習に取り組むことができる。 ・実験途中の記録や、期限内にレポートの提出ができる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
工業・工業情報数理		くすり・バイオ科 1 年	2	工業情報数理 (実教出版)	全工パソコン利用技術検定試験演習問題集 (全工高等学校長協会)
科目の概要と目標		ワードプロセッサWORDを用いて、ビジネス文章を作成できるようにする。 表計算ソフトEXCELを用いて、データ処理ができるようにする。 インターネットを活用できるようにする。 パワーポイントPOWER POINTを用いて、プレゼンテーションを行えるようにする。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5	ワープロ関連知識 OSの基本 パソコンの基礎①	・ワープロソフトの構成やキーボード操作、文章のページ設定、ページレイアウトについて ・コンピュータのハードウェアの基本構成について ・ソフトウェアの分類やその種類と役割、OSの基本操作について ・WORDを用いた基本的、実用的な文章の作成	・OSの役割やソフトウェアについて理解することができる。 ・ビジネス文章の作成をすることができる。	・自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。	・自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 ・授業内容について意欲的に実践しようとする。
6 ・ 7	パソコンの基礎② データの表し方	・WORDを用いた表や図を挿入した文章の作成 ・データの演算と変換法	・ビジネス文章の作成をすることができる。 ・2進数、16進数について、演算と変換の仕方を理解することができる。 ・基本演算方法を理解することができる。	・既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。	・自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 ・授業内容について意欲的に実践しようとする。
8 ・ 9 ・ 10	表計算ソフト① インターネット	・EXCELを用いた簡単な集計表の作成、印刷、データベース機能について ・インターネットの仕組みや接続方法、その利用について	・集計表を作成することができる。 ・インターネットの仕組みや接続方法、その利用について身に付けることができる。	・既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。	・自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 ・授業内容について意欲的に実践しようとする。
11 ・ 12	表計算ソフト②	・EXCELを用いたグラフの作成、印刷	・グラフの作成をすることができる。 ・データベース機能を使うことができる。	・既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。	・自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 ・授業内容について意欲的に実践しようとする。
1 ・ 2 ・ 3	プレゼンテーションソフト	・POWER POINTによるスライドの作成 ・POWER POINTを用いたインパクトのあるプレゼンテーション発表	・POWER POINTによるスライドを作成することができる。 ・POWER POINTを用いて、インパクトのあるプレゼンテーション発表をすることができる。	・既習した内容も含めて、自己の課題を言葉で他者に伝えることができる。	・自主的に学習に取り組み、周りの人と互いに助け合うことができる。 ・授業内容について意欲的に実践しようとする。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
工業課題研究		工業科 3 年	3	なし	なし
科目の概要と目標		身近な疑問に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決に向けて意欲的に取り組む能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。			
学期	単 元		学 習 内 容		到 達 度 目 標
1	テーマ、目的、計画の検討		<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの検討 ・実験方法の確立 ・年間計画の作成 ・実験、研究 ・中間発表を行う。 		<p>既習の授業やニュース、身近なものから疑問や課題を見つけ出すことができる。</p> <p>理論に基づいて仮説を立て、仮説を実証するための実験方法を検討することができる。</p> <p>本やインターネットからテーマに関する情報を収集し、目的を設定できる。</p> <p>疑問解決、目的達成に必要な設備や器具を調査し、実験可能なものを取捨選択できる。</p> <p>実験に要する日数などを検討し、年間計画を立てることができる。</p> <p>年間計画に沿って実験に取り組むことができる。</p> <p>得られたデータや結果を客観的に判断し、今後の進め方を検討することができる。</p> <p>デジタルカメラやタブレットなどの IT 機器を使うことができる。</p> <p>経過や進捗具合をわかりやすく説明することができる。</p>
2	実験、研究 実験結果のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表をもとに再度方向付けし、追加の実験や再調査を行う。 ・実験、研究 ・実験結果を整理する。 ・実験結果をまとめ、考察を行う。 ・個人論文の作成を行う。 		<p>経過を一度整理し、実験の方向性の確認や修正ができる。</p> <p>得られたデータや結果を客観的に判断し、今後の進め方を検討することができる。</p> <p>年間計画に沿って実験に取り組むことができる。</p> <p>デジタルカメラやタブレットなどの IT 機器を使うことができる。</p> <p>調査、実験が不足しているものを見極め、追加の実験や再調査ができる。</p> <p>データをまとめ、表やグラフを作成できる。</p> <p>表やグラフを用いてプレゼンテーション資料を作成できる。</p> <p>論文の作成方法を習得し、読みやすくわかりやすい論文を作成できる。</p>
3	発表会 抄録の作成 まとめと反省		<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の準備、練習を行う。 ・発表会を行う。 ・課題研究抄録集を完成する。 ・班ごとに研究結果等について反省を行う。 		<p>見やすいプレゼンテーションを考えることができる。</p> <p>わかりやすい発表原稿を作成することができる。</p> <p>わかりやすいプレゼンテーションや発表ができる。</p> <p>見やすくわかりやすい抄録を作成できる。</p> <p>ワープロや表計算、画像処理ソフトを使うことができる。</p> <p>研究の反省を行い、改善点や展望を今後の課題として実験方法を明確に示すことができる。</p>

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書	使用教材
商 業 ・ ビジネス基礎		情報デザイン科 ・ 1 年	2	ビジネス基礎 (東京法令出版)	全商ビジネス計算実務検定 模擬試験問題集3級・2級 ビジネス基礎問題集
科目の概要と目標		・商業科に入学した意義をすると同時に私たちの経済生活のしくみについて学ぶ。 ・全商ビジネス計算実務検定3級、2級の合格に向け知識・技能を高める。 ・会計活用能力を高め、製品を作るために必要な費用の計算方法について学ぶ。 ・ビジネスを展開する力の向上を目指し、自ら学び、ビジネスの発展に主体的に取り組む力を身につける。			
月	単 元	学 習 内 容	評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ・ 5	第1章 商業の学習とビジネス 第6章 取引とビジネス計算	・社会や産業全体の課題とその解決のために商号が果たしている役割、グローバル化する経済社会で職業人として求められる倫理観を育むことについて学ぶ。 ・商品に関する代価の計算、割合、度量衡・外国貨幣の換算、利益率、利息の計算などについて学ぶ。	・ビジネスが身近なことからして理解している。 ・電卓を使ってビジネス計算をする技術を身につけている。	・商業が果たしている役割、働くことの意義や役割を考察し表現できる。 ・ビジネス計算に関する知識と技術を身につけ表現することができる。	・将来の職業選択に不可欠な自己理解と職業の理解の方法の探求に主体的に取り組もうとしている。 ・ビジネス計算に関心を持ちその計算方法を積極的に学ぼうとしている。
6 ・ 7	第2章 ビジネスに対する心構え	・ビジネスを主体的合理的に行う上での信頼関係を構築する重要性、円滑に行う上での言葉遣いを基本とするコミュニケーションの意義について学ぶ。 ・企業活動において円滑にコミュニケーションを図るうえでの情報の重要性、企業活動に必要な情報の調査を入手することの重要性について学ぶ。	・信頼関係を構築するための倫理観や法令順守などの共通認識が理解されている。 ・基礎的なビジネスマナーが身につけている。 ・情報収集の意義、他者との情報交換の重要性、効果的な入手方法を理解している。	・ビジネスマナーを身につける意義を考え、望ましい心構えを自ら判断し、表現することができる。 ・情報を入手することを重要性を理解し、効率的に入手する方法を考案している。	・ビジネスマナーの習得に主体的に取り組もうとしている。 ・適切なコミュニケーションをとることで良好な人間関係を築こうとしている。 ・目的にあった情報の入手方法の探求など主体的にとり組もうとしている。 ・情報を入手することを重要性を理解し、効
9 ・ 10	第3章 経済と流通	・流通の役割について、生活水準の向上や生産の高度化などによる生産と消費の隔たりの拡大と関連づけて扱う。 ・売買業の業態の変化について扱う。 ・情報技術の進歩に伴う流通の効率化と最適化について具体的な事例で学ぶ。	・経済の基本的な仕組み、需要と供給、売買取引等基礎的な知識を理解している。 ・流通の意義と役割について理解している。 ・流通を支えるさまざまなビジネス活動に関する知識を身につけ、理解している。	・需要と供給・売買取引について身近な例を挙げながら考え、経済についての思考を深めていく。 ・生産と消費の隔たりをどのように埋めるかを思考していく。 ・様々なビジネスを活動について思考を深め、具体例などを用いて表現することができる。	・経済の基礎的・基本的なしくみ関心を持ち、需要と供給・売買取引について用語や種類などを積極的にしたベルなど主体的に学習に取り組んでイス。 ・流通のいぎや機能について関心を持ち主体的に取り組もうとしている。 ・様々なビジネスを活動について調べそれぞれの分類・役割・内容について調べ、主体的に取り組もうとしている。
11 ・ 12	第6章 取引とビジネス計算 第4章 企業活動	・売買契約について学ぶ。 ・代金決済の手段としくみについて学ぶ。 ・電子商取引について学ぶ。 ・企業の形態と経営組織の種類と特徴、意思決定の流れ仕事の進め方について学ぶ。 ・マーケティングの基本について学ぶ。 ・資金の調達、会計処理、税について学ぶ。	・売買契約の履行と締結流れを理解している。 ・様々な支払い手段決済方法について理解し、能率的な活用方法についても理解している。 ・企業に関する知識を身につけ、理解している。 ・マーケティング基礎的基本的知識を身につける。	・売買契約の履行と締結流れについて具体的に説明できる。 ・様々な支払い手段決済方法について理解し、能率的な活用方法についても説明できる。 ・企業に関する知識によって、どのような起業であるか説明できる。 ・マーケティングについても説明できる。	・売買契約の履行と締結流れについて主体的に取り組もうとしている。 ・様々な支払い手段決済方法について理解し、それぞれの特徴を積極的に調べ主体的にとり組もうとしている。 ・企業に種類経営理念、組織について関心をもち、主体的に調べるなど取り組もうとしている。 ・マーケティングについても関心を持ち、主体的に取り組んでいる。
1 ・ 2 ・ 3	第5章 身近な地域のビジネス	・身近な地域の抱える課題について調査し考察する。	・身近な地域のビジネスにおいて必要とされる姿勢と課題への取り組み方を理解している。	・身近な地域のビジネスに関する具体的な事例や課題を発見し、その対応策を考案している。	・身近な地域のビジネスに関する具体的な事例や課題について調べるなど主体的に学習に取り組んでいる。

教科・科目		対象学科・学年	単位数	教科書		使用教材	
商業・情報処理		情報デザイン科・1年	2	最新情報処理 Advanced Computing（実教出版）		全商情報処理検定模擬試験問題集2、3級(実教出版) 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2、3級(実教出版)	
科目の概要と目標		・情報を正しく活用するための基本的な知識を身につける。 ・コンピュータに関する基礎的な知識について理解する。 ・コンピュータの基本的な操作方法を習得する。 ・表計算ソフト・グラフ・データベース作成の必要性和作成方法について理解する。 ・ビジネス活動におけるコミュニケーション手段としてのビジネス文書作成方法を習得する。 ・株式会社設立に向けてプレゼンテーションの基礎について理解する。					
月	単元	学 習 内 容	評価方法				
			知識 技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に 取り組む態度		
4月 ～ 7・ 8月	1章 企業活動と 情報処理 2章 コンピュー タシステム と情報通信 ネットワー ク	情報の意義と役割を理解し、そのために必要な情報モラルの考え方や態度について理解し、守るべき法規の必要性等を理解する。 コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。	コンピュータや情報通信ネットワークを活用して、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、分析した結果を表、グラフ、画像などを用いて適切に表現する知識と技術を身につけようとしている。また、個人情報や知的財産の保護に留意して、情報を主体的に活用しようとする態度が備わっている。	ビジネスにおいて情報を効果的に活用するための情報処理の方法について考えようとしている。	情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
9月 ～ 12月	3章 情報の集計 と分析 4章 ビジネス文 書の作成	・ソフトウェアの基本的な操作を習得する。 ・関数の利用方法を習得する。 ・データベースの特性とその活用方法を理解する。 ・ワープロソフトウェアの技術を習得する。	ビジネスに関する問題の発見と解決について、基礎的な技法を理解し、関連する技術を身に付ける。文書作成能力を身につける。	ビジネスに関する問題の発見と解決について、情報の提供に対する要求を分析し、科学的根拠に基づいて、表現し、評価・改善できる。	ビジネスに関する問題の発見と解決について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
1月 ～3月	5章 プレゼン テーション	・プレゼンテーションを基礎について理解する。 ・プレゼンテーションを行う技法を習得する。	プレゼンテーション活動の意義や役割を理解し、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付ける。	プレゼンテーション活動の意義や役割を思考し、正しい判断で表現することができる。	プレゼンテーション活動に主体的に取り組むことができる。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
商 業 ・ 課題研究	情報デザイン科 ・ 3 年	5	なし	
科目の概要 と目標	①卒業制作のための資料の収集・調査・分析を通して、社会の状況に広く目を向け、情報を取捨選択して処理する力を身につける。 ②プレゼンテーションにおける総合的な力を高めるとともに、コミュニケーション能力を高める。 ③様々なメディアにおけるデザイン技術や視覚伝達方法について理解し、制作する能力を身につける。			
学期	単元	学習内容	到達度目標	
1	卒業制作	○卒業制作の企画、立案 ○企画のプレゼンテーション ○企画の検討 ○資料の収集・整理 ○調査・分析 ○マーケティングリサーチ	卒業制作が 3 年間の学習の総まとめであることを理解し、高校生らしい発想や展開ができるよう基礎的な事項を理解して、制作することができる。 グループでの作業になるため、コミュニケーションを密接に取りながら取り組むことができる。 主題を明確にして制作に取り組むことができる。	
2	卒業制作	○調査結果の分析・解釈 ○コンセプトのプレゼンテーション ○デザイン展開・制作 ○校正・修正 ○ディスプレイの検討 ○最終プレゼンテーションの準備	コンセプト設定が、グループ内の共通理解を十分に図って決定することができる。 展開した発想を、具体的な内容として整理し収束することができる。 卒業制作がどの分野においても目的を促進するための視覚的な効果をねらった活動であることを理解し、コンセプトを反映することができる。 情報を整理し、見やすくわかりやすいディスプレイができる。 プレゼンテーションでの評価を基に改善点を確認することができる。	
3	北高展での展示発表 最終プレゼンテーション ポートフォリオ	○展示発表 ○最終プレゼンテーション ○ポートフォリオの作成	テーマ・コンセプトを伝えるプレゼンテーションであることを理解し、姿勢・動作・話し方など、相手に伝えるための技術を身に付けることができる。 三年間の制作物を、見やすく美しく確認できるようにレイアウトする。	